

2026（令和8）年度
事業計画

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

目次

01 法人	1
02 垂穂寮	11
03 やまばと希望寮	14
04 わかば(もくれん含む)	17
05 みぎわ	21
06 ケアセンター花もも	23
07 ケアセンター野ばら	25
08 ケアセンターかたくりの花	27
09 ケアセンターコスモス	29
10 ワークセンターカサブランカ	31
11 ワークセンターなのはな	33
12 ワークセンターあさがお	35
13 ワークセンター希望の家(ふれあい含む)	37
14 ワークセンターやまばと	41
15 ワークセンターさくら	43
16 ケアセンターマーガレット	45
17 レタスクラブ	47
18 生活支援センターやまばと	49
19 聖ルカホーム(ショートステイ含む)	51
20 グレイス	54
21 相寿園	56
22 デイサービスセンター真菜	59
23 デイサービスセンターすずらん	61
24 ライフサポートさふらん	63
25 居宅介護支援事業所シャローム	65
26 牧之原市地域包括支援センターオリーブ	67

2026（令和8）年度事業計画

社会福祉法人牧ノ原やまばと学園

A はじめに

聖書には「互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように互いに愛しあいなさい（ヨハネによる福音書 15:12）」という言葉があります。当法人は設立以来、「イエスの言葉」を^{いしづえ}礎とし、一人ひとりの命の尊厳を守り続けてきました。効率性や経済合理性が推奨されていますが、これらは福祉の目標ではなく事業継続のための一つの方法であることを認識する必要があります。牧ノ原やまばと学園の定款は、「私たちはキリスト教精神に立って社会福祉事業を行う」と、明記しています。キリスト教精神とは、一言で言えば「無償の愛」であり、この精神に立って事業を行うとは、「どのような人の上にも神の愛が注がれている」ことを自覚し、「自分を絶対化せず、独断的にならず、お互いの欠点や弱さを赦し、助け合っていくこと」とも言えます。不十分な私たちですが、常に原点に立ち返り、「ともに生きる」にふさわしい歩みを皆で進めていきたいと思います。

「2026年度」は、大きな転換期にあります。少子高齢化が加速し、社会の分断や孤独感は深まり、福祉ニーズはかつてないほど複雑化しています。また、人手不足や物価高騰、激甚化する自然災害、国際秩序の混乱や戦争の勃発など、私たちを取り巻く環境も決して平坦ではありません。しかしこのような不確実な時代だからこそ、私たちは、ぶれることなく、「一人ひとりの命の尊厳」と、「ともに生きる」を掲げ、誰もが喜んで生きられるよう支援し、福祉課題に取り組んでまいります。

当年度の事業計画には、「未来の福祉施設建築プロジェクトチーム」の発足など、5年後を見据えた未来志向の挑戦も盛り込みました。また、「やまばと中長期計画」の6グループ（「経営」「支援」「人材」「研修」「建物・環境」「地域」）から提示された計画も取り入れましたが、何よりも足元を固めることこそ大事と考え、「わたしたちの願い」の充実と、「有事に機能する防災体制の構築」を重点目標として掲げました。また、職員が心身ともに健やかに働けるよう、専門家やチャプレンの配置についても具体化する予定です。一方、私たちは地域という大きな家族の一員であることを忘れてはならず、当年度も、低所得者への利用者負担軽減制度への協力、食糧支援、高齢者の買物支援や、学校との交流などを継続する予定です。

私たちの1年間の働きが、関わるすべての人々に喜びと安心をもたらし、そして、共生社会形成へつながるものとなりますよう切望いたします。

B 牧ノ原やまばと学園のビジョンと基本姿勢、私たちの願い

1 ビジョンと基本姿勢

- (1) 牧ノ原やまばと学園は、「ともに生きる」の理念を掲げ、小さき人々が大切にされ、誰もが幸せになる「共生社会」の形成を目指している。この務めにつく私たちは、「思いやりと助け合い、専門性」で特色づけられる働きをしていきたい。
- (2) 私たちの活動の根底は、キリスト教精神（神を敬い、隣人を愛す）である。人は自己中心的で自分を絶対化しがちな存在なので、絶えずこの基盤に立ち返って、ご利用者、職員、地域の人々との関係を見つめ直し、お互いを尊ぶよい関係を築いていきたい。

2 わたしたちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の生命の輝きを伝えていきたい。

C 2026年度牧ノ原やまばと学園の事業等の紹介

本年度に実施する事業や組織体制、役員・職員状況等は、添付資料の通りである。

- 1 本年度実施事業 : 事業計画B-1を参照。
- 2 組織体制 : 事業計画B-2
- 3 役員・評議員名簿、並びに、職員状況 : 事業計画B-3
- 4 理事会、評議員会等の年間予定表 : 事業計画B-4
- 5 2026年度主要な研修計画 : 事業計画B-5

D 重点目標

- 1 「わたしたちの願い」を、日々の活動において実践する。特に、(1)(2)に力を注ぐ。
- 2 有事に機能する防災体制を築く

E 具体的な計画内容 (★が付いたものは、初めての計画)

- 1 経営面・労務管理面 (未来志向で健全な組織運営)
 - (1) 法人本部の新体制を中心に、全事業所の資金(運転資金を除く)を一括管理 ★
 - (2) 「未来の福祉施設建築プロジェクトチーム」の発足。5年後の実現を目指す ★
 - (3) 事業所の「会計」、並びに★「支援」に関して、モニタリングや内部監査を行う。
(「会計」:情報共有し健全な経営を目指す。「支援」:見える化し内容の向上に努める)
 - (4) ITツールの活用による生産性向上の取組み

- 「DX 学校」受講生を中心に、適切な IT ツールの活用と職員への浸透を図る
- (5) 労務環境改善のための計画
 - ①一般事業主行動計画

当年度も有給休暇の消化／育児休暇取得の奨励／ノー残業デイを目指す。
 - ②最新の労務関連法令の学びと、法令遵守
 - (6) 職員の悩みに寄り添う人（専門家やチャプレン）を配置予定 ★
- 2 人材面（採用・育成・定着への努力）
- (1) 実習生の食費、宿泊費の免除 ★
 - (2) 実習生が魅力を感じる職場（人格の尊重、言葉遣い、専門性）を目指す
 - (3) 積極的な求人活動と職員育成（前年度末に作成した求人用パンフレットを活用）
 - (4) ケアマネージャーの計画的な育成 ★
 - (5) 外国人ワーカーの育成や交流 ★
 - (6) 福祉現場のリーダーの育成（研修に参加、現場での指導力の養成）
 - (7) 魅力的で分かり易いキャリアパスの提示
- 3 支援面（支援者の姿勢：「いのち」への畏敬／ひとりひとりの「人格」の尊重）
- (1) 法人の内外で、施設の支援（実践）について発表 ★

虐待ゼロの取組み、同性介助、本人の意思尊重の支援、作業能力向上の支援等
 - (2) 疲弊しがちな相談員などの懇親会開催（上記 E-1-（6）にも関連）
- 4 研修面（理念・ビジョン・価値観・専門性の学び）
- (1) 法人主催の年間研修や、外部研修の活用（法人主催の研修は別表の通り）

特に、新人職員や、中堅職員の研修に力を入れる ★
 - (2) 福祉職員必須の研修を確実に実施、事業所間の連携を推奨
 - (3) 聖書メッセージの配布や、聖書に聴くときの適切な形での実施 ★
 - (4) 創設期の歩みや活動についての学び（「先輩職員から話を聴く」も含む）★
- 5 建物・環境面（安心・安全・清潔）
- (1) 建物の維持管理

自施設のメンテナンスのため、簡単な「建物チェック表」を使って定期的点検
 - (2) 自然災害や人的災害への対応（「防災対策」等は、「リスク対応」の項目も参照。）

備蓄品（水や食料）購入については、一括購入可能な事業所が連携して具体化
 - (3) 各事業所における「整理・整頓・清潔」を促し、環境の美化を推奨
- 6 地域社会（保護者や、学校・病院等の社会資源との連携も含む。地域課題への取組み）

- (1) 地域住民への公益的取組
 - ① 低所得者への利用者負担軽減制度の継続、
 - ② 食糧支援活動へ協力
 - ③ 地域のサロン参加者への送迎協力、
 - ④ サロンのプログラムの提供に協力
 - ⑤ 住民の買物支援のため、施設車両の貸し出し
 - ⑥ 地域の清掃活動に参加
- (2) 委託事業の継続：人手確保や財政面で困難が多いが、地域福祉推進のため協力
 - ① 包括支援センターと生活支援センター（委託事業）
 - ② レタスクラブ（心を病む人たちの居場所）の運営
 - ③ 養護老人ホーム「相寿園」の指定管理事業
- (3) 地域交流・地域貢献事業の実施：地域住民との絆を深める交流事業を実施
- (4) 地域行事への参加、法人行事への招待
- (5) 地域への発信
 - ① やまばと機関紙の発行（隔月）
 - ② チャットやフェイスブックの「活用委員会」の設置 ★
 - ③ 地域の小学校、中学校、高等学校、大学との交流、ボランティアの受入
 - ④ 基督教系学校との定期的交流：恵泉女学園生夏季実習／雙葉女学園生の慰問

7 リスク対応

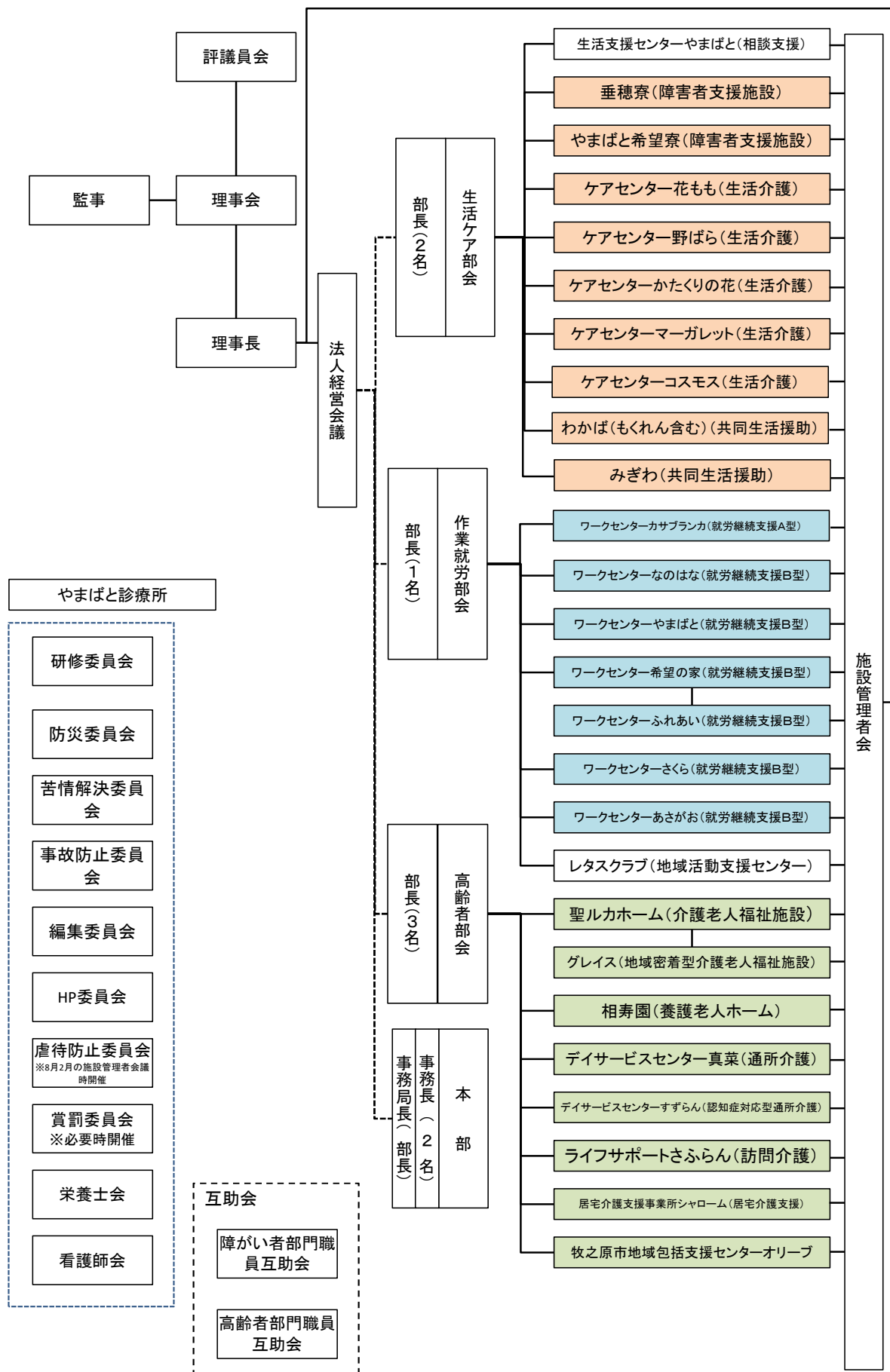
- (1) 有事に機能する防災体制の構築
 - ① 全職員に対する防災訓練、安否コールの実施（事業所では毎月、訓練あり）
 - ② 豊かな体験と知識をもった専門家を講師として防災研修（当年度5回目の研修）
 - ③ 施設での毎月の訓練や、全体訓練の振り返りと改善（火災・地震・津波・暴風雨）
- (2) 感染症への対応
 - ① 手洗いやマスク着用など、予防の徹底
 - ② 各施設の状況把握と、全体的な対応指示
- (3) サイバー攻撃やシステムダウン等への防御：本部を中心に情報連絡・対応の通知

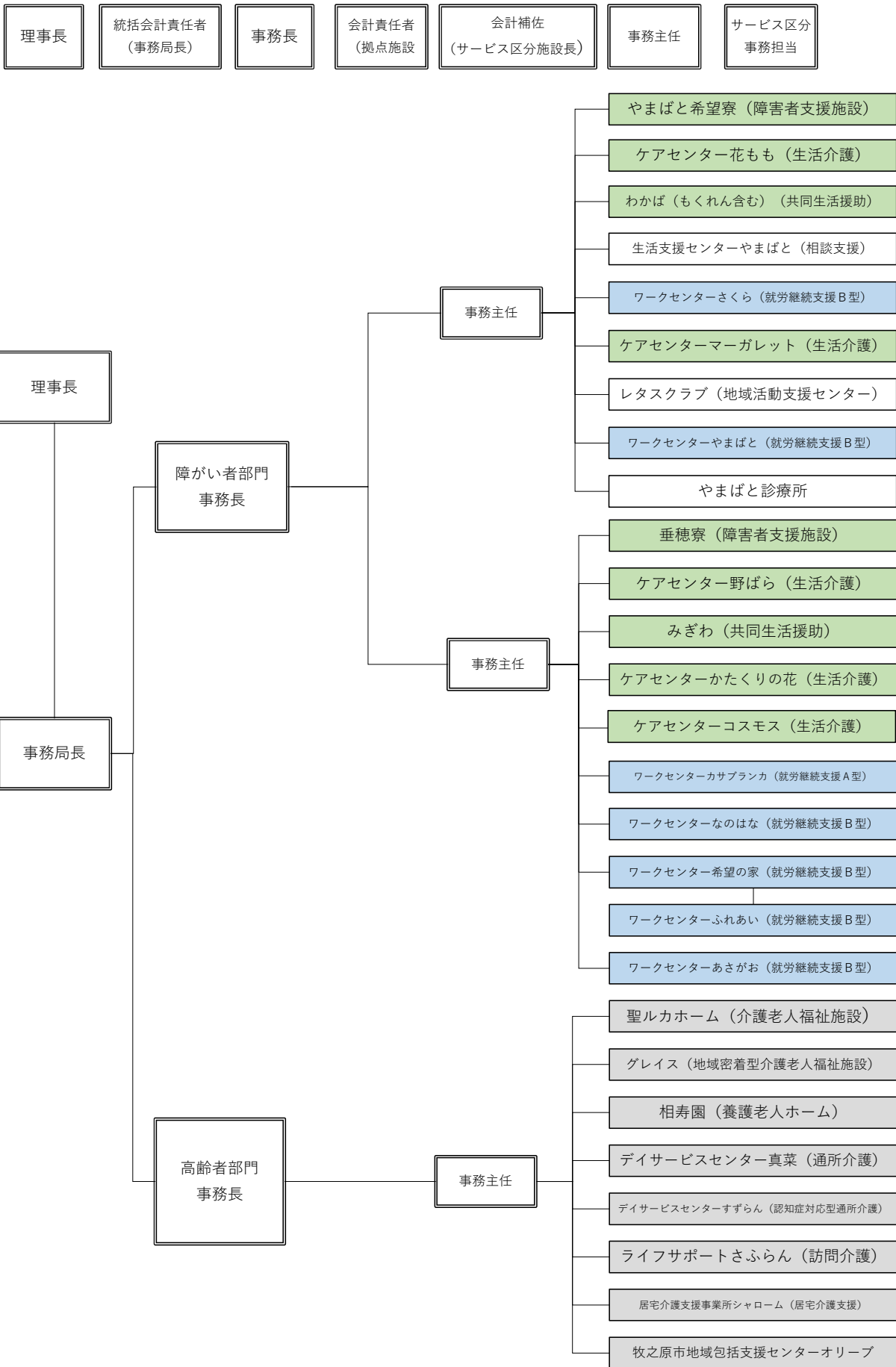
8 その他：職員たちの要望やアイデアに応えることになったもの

- (1) 介護技術コンテストの開催→ 上記計画、E-3-(1)に関連
- (2) ①大運動会や、②やまばと祭りや、「③カフェやまばと」を中心にした交流 →
3番目の計画を、「地域交流・地域貢献事業」が主体となって実施する予定
- (3) 各施設間の交流実習（交換実習）

以上

事業	事業所名	種別	設立年月日	定員 (SS)	管理者等	正規職員	準職員	嘱託	パート	合計	
老人福祉	1 法人本部	-	1970・4・12	-	板倉 仁	2	1	1	1	5	
	第一種	2 聖ルカホーム (※2種事業ショート含む)	介護老人福祉施設他	1981・5・1	70(10)	大石 幸	42	3	4	23	72
		3 グレイス	地域密着型介護老人福祉施設他	2010・8・1	29	片山 喜之	15	2	2	13	32
		4 相寿園	養護老人ホーム他	1961・9・1	50(5)	柴田 慎也	8			16	24
		5 デイサービスセンター 真菜	通所介護他	1999・4・1	35	吉田 陽子	2	3		10	15
	第二種	6 デイサービスセンター ずららん	認知症対応型通所介護	2010・8・1	12	米山 千穂	2			7	9
		7 ライフサポート さふらん	訪問介護他	2000・11・1	-	大石 幸	1	1		8	10
	障害者福祉	第一種	8 垂穂寮 (※2種事業ショート含む)	障害者支援施設他	1987・4・1	50(4)	石川 忠昭	29	1	17	47
			9 やまばと希望寮 (※2種事業ショート含む)	障害者支援施設他	1997・4・1	30(5)	大畑 彰弘	22	2	7	31
		第二種	10 わかば	共同生活援助 (主住居)	2010・4・1	10	高杉 和成	2	2		5
11 もくれん			共同生活援助 (従住居)	2010・4・1	10	高杉 和成	1			11	12
12 みざわ			共同生活援助	2010・4・1	10	杉山 勝拓	3	1		5	9
13 ケアセンター 花もも			生活介護	1997・4・1	20	桑原 裕子	4	2		6	12
14 ケアセンター 野ばら			生活介護	1999・4・1	20	伊藤 美和	7	1		5	13
15 ケアセンター かたくりの花			生活介護	2006・4・1	20	渡邊 千恵子	3	1		11	15
16 ケアセンター マーガレット			生活介護	2005・4・1	20	田澤 岳大	3			7	10
17 ワークセンター カサブランカ			就労継続支援A型	2007・4・1	15	澤渡 繁	2	1		2	5
18 ケアセンター コスモス	生活介護	1980・4・1	20	石神 知之	2	1		5	8		
社会福祉事業	第一種	19 ワークセンター なのはな	就労継続支援B型	2000・4・1	30	西村 美恵子	3		9	12	
		20 ワークセンター 希望の家	就労継続支援B型 主	1981・10・1	40(20)	原 絵梨	2		5	7	
	第二種	21 ワークセンター ふれあい	就労継続支援B型 従	1994・4・1	(20)	原 絵梨	2		2	4	
		22 ワークセンター やまばと	就労継続支援B型	1977・10・1	20	畠 夏実	3	1	1	2	7
		23 ワークセンター さくら	就労継続支援B型	1981・10・1	20	河本 敦子	3		1	3	7
		24 レタスクラブ	地域活動支援センター	2010・10・1	-	河本 敦子				2	2
		25 ワークセンター あさがお	就労継続支援B型	1992・4・1	20	森田 奈津子	3	1		6	10
		26 生活支援センター やまばと(牧之原/島田/吉田)	相談支援	2003・10・1	-	大畑 彰弘	7			1	8
		27 居宅介護支援事業所 シャローム	居宅介護支援	1999・10・1	-	栗林 真弓	2				2
		28 牧之原市地域包括支援センター オリーブ	地域包括支援センター	2006・4・1	-	阿部 順子	4		1	3	8
29 やまばと診療所	診療所	1973・4・1	-	赤堀 由砂			2	2	2		
						179	23	13	192	407	





1. 役員・評議員名簿、並びに、職員状況

区分	氏名	役職その他
理事長	長澤 道子	社会福祉法人牧ノ原やまばと学園理事長
理事	姉崎 弘	九州女子大学教授
理事	大石 幸	聖ルカホーム・ライフサポートさふらん施設長
理事	佐々木 炎	NPO 法人ホットスペース中原理事長、牧師
理事	平井 章	元十字の園理事長
理事	松田 正幸	牧之原市地域包括支援センターオリーブ施設長
理事	三浦 賀世	元静岡県立高等学校教諭
監事	飯塚 誉之	元島田掛川信用金庫常務理事、元支店長
監事	松浦 隆雄	元 静岡県庁職員
評議員	池上 千穂	東部特別支援学校副校長
評議員	出水 巖生	浜松市北障がい者相談支援センター相談員
評議員	太田 雅子	聖隷クリストファー小学校校長
評議員	柴田 敏	静岡英和学院院長
評議員	杉本 正	牧之原市社会福祉協議会会長
評議員	外岡 潤	当法人顧問弁護士 弁護士法人おかげさま代表弁護士
評議員	田島 逸雄	吉田町社会福祉協議会会長
評議員	早川 ひろみ	創設期のやまばと学園職員
評議員	山城 厚生	島田市社会福祉協議会会長

2. 職員状況

【正規職員】	179人	(男 67人 女 112人)	平均年齢 49.4 歳
【準職員】	23人	(男 7人 女 16人)	平均年齢 52.3 歳
【嘱託職員】	13人	(男 7人 女 8人)	平均年齢 46.9 歳
【パート職員】	192人	(男 27人 女 165人)	平均年齢 60.5 歳

2026（令和8）年度 牧ノ原やまばと学園 予定表（理事会その他の会議や、研修等）

	理事会・評議員会	法人関連の会議や研修等	その他
4月		・前期・オリエンテーション I (4/1) ・前期・苦情解決委員会 ・新人管理者のための研修	会計消費税監査 会計決算監査 業務監査
5月	2026年5月23日 第1回理事会	・新人職員研修1 ・前期・事故防止委員会 ・接遇マナー研修	会計監査 決算ヒアリング
6月	2026年6月13日 定期評議員会	・一般職員 研修（介護スキル、現場接遇マナー） ・新年度全体職員研修	
7月		・交通安全講習会 ・中堅職員研修 ・接遇マナー研修	恵泉女学園訪問(7/25～27)
8月		・経理・財務研修 ・夏期 全体虐待防止委員会 ・接遇マナー研修 ・主任研修	納涼祭（各施設）
9月	2026年9月19日 第2回理事会	・後期・オリエンテーション I ・事例検討会（障害者関連と高齢者関連）計2回 ・接遇マナー研修	1次補正ヒアリング
10月		・法律研修 ・後期・苦情解決委員会 ・BCPに基づく全体防災訓練	・全職員へ 異動希望等の調査表配布
11月		・後期・事故防止委員会 ・中堅職員研修 ・新人職員研修2	定期監事監査 2次補正ヒアリング ・自己評価表の配布と提出
12月	2026年12月19日 第3回理事会	・中長期計画の検証／法人の新年度目標の発表 ・主任研修	クリスマス会（各施設） EPA生（印尼女性）1名垂穂寮へ
1月		・全体防災研修	管理者面談
2月		・新年度事業計画作成（3次補正ヒアリングで発表） ・冬期 全体虐待防止委員会 ・労務研修 ・中堅職員研修	3次補正ヒアリング
3月	2027年3月20日 第4回理事会	・新人職員研修3 ・年間活動に関する事業報告の作成	
その他	その他の関係団体の会議等の日程は省略 人材確保のための日程等も割愛	・適宜、サボカレ等の、短時間 Web 研修を受講。 【毎週】理事長より「聖句とメッセージ」のメール送信 【毎月】経営会議、施設管理者会、部会（高齢1／障碍2）研修委員会、施設の避難訓練 【隔月】偶数月、機関紙「やまばと」発行、編集委員会	各施設：実習生、見学者、ボランティアの受入、／施設便り発行／誕生会や行事開催。 県社協・経営協主催、関係機関団体主催の研修へ参加

2026年度 法人主要研修計画

	研修名	対象者	開催時期	内容(案)	研修担当
1	新人オリエンテーションⅠ・Ⅱ	入職1年未満	4月・10月	法人の理念等の学び	本部
2	新人職員研修Ⅰ・Ⅱ	新卒職員	5・12月	法人職員として大切な事 社会人としてのルール 先輩職員から学ぶ 他	河本・吉田
3	接遇・マナー研修	全職員	5・7・8・9月	法人と自身の魅力アップ 誰もが気持ちのいい対応を身に付ける	大石・原
4	新年度研修	全職員	6月	やまばと学園の過去・現在・未来 仲間づくり	理事長 研修委員会
5	交通安全講習会	運転に従事する職員	7月	交通安全の学び	交通安全委員会
6	中堅職員研修Ⅰ・Ⅱ	2等級職員	7月 2月	スキル(キャリア)アップ 良い職場づくり	石川・栗林
7	経理・財務研修	管理者・事務員	8月	財務諸表の読み方	事務局長
8	主任研修Ⅰ・Ⅱ	主任	8・12月	部下育成とチームビルディング	
9	法律研修	管理者・主任	10月	契約書の見直しとコンプライアンス	片山・桑原
10	防災研修	管理者・防火管理者 等	1月	BCPへの取り組みと災害対応	大畑・防災委員会
11	労務研修	管理者・事務職員	2月	法改正への対応と労務管理について	本部
12	新人管理者研修	新人管理者	3月	管理者としての心構えと業務について	本部・部長

2026（令和8）年度事業計画

障害者支援施設
垂穂寮

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

1 事業所の重点目標

他職種連携を強化し、各部門が協働することでご利用者の意思決定や社会参加、地域とのつながりを総合的に支援する。そのためには風通しの良い職場を基盤に、職員同士が率直に意見を交わし、職員の長所を生かし、互いに高めあえる組織づくりを進めていく。ご利用者の安心のために不適切支援ゼロを徹底し、権利擁護と虐待防止の意識を全職員が共有し、笑顔の絶えない施設を目指していく。

法人の重点目標に対する事業所の取り組み

(1) 私たちの願いに対して

できないからやらないのではなく、ご利用者のできることを生かした支援の実践によってご利用者の自信につなげ、賞賛や承認が当たり前のように実践できる事業所を目指していく。また、ご利用者が生活しやすく安心した暮らしが保証されるように整理整頓を心がけるほか、受容、傾聴、信頼、尊敬の態度を常に持ち支援にあたる。引き続き静岡福祉大学の木下先生を中心に福祉系大学等との関りを持ちながら、権利擁護や支援の基本姿勢が意識できるようにしていく。

(2) 有事に機能する防災体制について

土砂災害警戒区域に立地することを踏まえ、豪雨等の気象情報発令時には気象情報及び自治体の避難情報を常時確認し、BCPに沿った対応を行う。事前に定めた避難経路や避難場所にスムーズに移動できるように、定期の避難訓練及びBCPに沿った訓練を実施していく。日常的には施設の点検や補強、あるいは非常用備蓄品の確認も行っていく。

D 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

	定員	昨年度 登録者数	昨年度の 利用率	目標とする 契約者数	開所日数 見込み	一日平均 見込み	利用率 見込み
施設入所支援	50	44	84.6%	45	365	45	90%
生活介護	40	44	82.1%	40	268	35	87%
短期入所	4	20	67.2%	15	365	2	50%
日中一時	4	4	3%	5	365	0.5	12.5%

区分による利用者予想 ※2月末実績で次年度を見込む

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
				1	8	36

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	2	32		1	11	47
常勤換算	1	1	26.8		1	7.9	38.7

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	経営会議、施設管理者会、事故防止委員会、苦情解決委員会、生活ケア部会、研修委員会、防災委員会、未来検討会、事務統一検討会、看護師会、栄養士会
施設関係	寮全体会議（職員研修含む）、運営委員会、ケースチーフ会、ケース会、虐待防止委員会、身体拘束委員会、事故防止委員会、感染症対策委員会、給食委員会、研修委員会、地域連携推進会議、ケース検討会
外部を含む委員会	島田市自立支援協議会、島田市地域福祉活動推進委員会、志太榛原地区施設連絡会、島田市社会福祉法人・施設等連携ネットワーク会議、静岡県知的障害者福祉協会関連会議

F 年間事業（行事）計画

秋祭り（9月）、大津夏祭り（8月）、大津ふれあい祭り（11月）、オレンジマラソン（11月）、クリスマス会（12月）、春祭り（3月）、ホットプランによる個別外出や小旅行（未定） 地域でのイベント（未定）、誕生会（毎月）、遊びりテーション（毎月）、おやつ作り（未定）

G 研修計画

施設内研修	感染症対策研修及びBCP訓練、防災研修およびBCP訓練、虐待防止研修、リスクマネジメント研修、介護の知識及び介護技術研修、自閉症研修、救急法、接遇研修、メンタルヘルス
法人研修	新年度全体研修、中堅職員研修、防災研修、労務研修、経理財務研修、
施設外研修	自閉症eサービス、権利擁護研修、県知協研究集会、県社協関連研修、

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

- ・自前による食事提供を生かした地域行事への出店や施設内行事に地域住民を招き、行事食を提供する。また、市内外で行われるイベントにも積極的に参加し、地域住民との交流を図っていく。
- ・インスタグラム等でも日々の生活の発信を行っていく。
- ・大津地区買い物支援での車両提供や車いすステーションの設置は引き続き実施する。

I 家族との連携、交流について

- ・家族日より「みのり」を毎月発行する。
- ・個別支援計画に基づく定期面談時には、本人とともに地域生活の意向確認も行いご利用者の望む暮らしの実現を目指していく。
- ・行事を通しての交流の他、面会や外出泊も随時受け付け積極的な交流の機会を図っていく。

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数0件。

昨年度、事故や不適切支援については副施設長やサービス管理責任者を窓口とし、都度ご家族に報告した。ご家族等から苦情として挙がることはなかったものの、今後もこれまで築き上げた信頼関係が継続できるように関わりを持っていく。

地域、学校、関係機関等においても、依頼等があった場合には丁寧に対応し、できる限りの協力を惜しまず、信頼が得られるような関わりを持っていく。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故：92件（前年度）

昨年度最も多い事故内容が転倒であった。ご利用者の体力低下もあるが、職員が支えきれず転倒に至った場面もある。また、転倒が原因と思われる骨折事故も見られたため、移動、移乗時の介助は確実に支えられるような形で支援する。その他、薬関係の事故も無くすことができるように、投薬するまでの確認を一つひとつ確実にするとともに、対応策だけでなく、なぜ起きたのかといった原因の分析もきちんと行っていく。

(2) ヒヤリハット：35件（前年度）

事故防止同様の対策を講じていく。

(3) 虐待：1件（前年度）

虐待防止のための研修や取り組みは前年度以上に実施し、虐待行為は許されないことの意識づけを徹底していく。また普段からの関わりについても、虐待につながる小さな芽の発見や改善に取り組むこと、風通しの良い職場作りを実践していくこと、ストレスのかかりやすい時間帯や場所はフォローできる体制を整えていく。

(4) 身体拘束：1984件（前年度）

他害行為や破壊行為等大きなけがにつながる行動に対して緊急一時的な形での居室施錠が最も多い。障害特性に合わせた環境の設定や職員体制の整備により施錠する時間を減少できる余地は十分にある。特に自閉症、強度行動障害に対する理解を深め、単なる定期的な身体拘束の振り返りだけで済ませることなく、支援そのものの見直しもケース会、ケース検討会を通じて実施していく。

L 防災関連：防災訓練計画

月1回の火災、あるいは地震を想定した訓練を実施する。また、BCPに即した訓練も行う、日頃からの準備やいざというときの初動対応がスムーズにできるようにしておく。

M 環境整備に関する計画

- ・2027年の蛍光灯製造中止に伴い、施設内のLED化を進める。また、カスタマーハラスメント対策として録音機能のある電話に切り替える。
- ・事務処理や記録管理、直接支援における見守り等職員の負担が軽減できるよう、ICT化をさらに推進する。
- ・中庭は車いすのご利用者でも行き来しやすいように改修する。
- ・毎日のホール・食堂・トイレ掃除、エアコンの定期点検、防災設備の定期点検、中庭の草刈り及びフェンス外側の植木伐採の外部委託は継続。

N 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

昨年度当初は入所利用者41名でスタートしたことで、収益が前年に比べて大幅に減少した。しかし秋頃から緊急の短期入所者を積極的に受け入れ、結果的に施設入所・生活介護利用者の獲得にもつながり収益に改善がみられた。障害特性が強く支援が困難なご利用者とわかっていながらも受け入れたことが、地域のニーズに応え多少なりとも信頼につながったと実感できた。今年度も必要に応じて緊急の受け入れ要請に関してはできる限り応えていく。

また、昨年度は経年劣化に伴う大きな修理、修繕が数回見られたが、今年度もご利用者の安心した生活につなげるため、必要な修理、修繕は随時行っていく。

2 借入金償還計画 なし

3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

常葉大学保育学生、浜松学院大学保育学生、静岡福祉大学社会福祉士実習生、日本福祉大学社会福祉士実習生

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

2026年4月1日 指定更新

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

1 事業所の重点目標

- (1) 大目標：明るい未来検討会を中心に、利用者様が「しあわせ」に生活ができる、職員が「しあわせ」を感じて働くことができる、地域に「しあわせ」を届けることができる事業所運営を行う。
- (2) 全体目標：①整理・整頓・清掃（3S）：整理・整頓を更に進め、清掃を重ねることで、利用者様にとっては生活しやすい、地域にとっては頼りになる、職員にとっては働きやすい場所となる。②繋がる、伝わる（3年目）：利用者様同士が、利用者様と職員が、職員同士が、事業所がご家族と、地域と繋がる。そして、更に必要なことが確実に伝わるようになる。③凡事徹底（2年目）：むずかしいことができて、平凡なことできないということではいけない。平凡で当たり前のことが徹底してできる事業所になる。
- (3) 支援部門目標：①マニュアル・支援手順書の見直し、更新に取り組み、不足している物に関しては新規で作成し、ムリやムダを減らし業務の効率化を進める。②利用者様の生活環境の改善に取り組むことで、生活の質を向上させ、安定した暮らしが出来るようにする。③利用者様の荷物の忘れ物や紛失をなくす。
- (4) 看護部門目標：①健康の維持、異常を早期に発見する。そのためにも、利用者様の薬について職員が理解し、与薬を確実に行うことができるとともに、体調の変化を意識する。②環境を整える：整理整頓、換気・加湿、衣類の調整ができています。③感染予防（3年目）：PPE（個人用防護具）の着脱、手指衛生を確実にを行い感染を予防する。
- (5) 調理部門目標：①防災非常食：保管数を3日分から5日分に増やす。また、非常食献立表の見直しを行う。②整理整頓（3年目）：栄養業務に関する書類の整理整頓を行う。
- (6) 相談部門目標：①整える支援・相談：記録、情報共有、連絡体制を整理し、必要な情報が確実に共有される仕組みを作り、安心して任せられる相談部門にする。②つなぐ・支える（3年目）：利用者様・ご家族、職員、地域をつなぎ、安心して話せる関係性を築くとともに、7ヶ月会議を充実させ、話し合いで終わらせずに、しあわせを形にする。
- (7) 事務部門目標：①事務関係業務を効率的に行い、希望寮の業務が円滑に行えるよう提案と調整を行う。②ご家族が来訪やお電話をいただいた際に心地よく職員に繋がるよう意識を持つ。

2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み

- (1) 私たちの願いに対して：利用者としてしっかり向き合い意向を把握する。また、個別支援計画を基にして、一人ひとりの人格を尊重し、その特性に合わせた支援を提供するとともに、地域の福祉ニーズ、特に短期入所ニーズに応じていく。
- (2) 有事に機能する防災体制について：牧之原市竜巻災害時の停電を教訓として、最低限の電源確保を優先的に考えた防災体制（備品等）を整える。

D 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

	定員	昨年度の 契約者数	昨年度の 利用率	目標とする 契約者数	開所 日数	1日平均	利用率
施設入所支援	30	31	98.8	30	365	29.4	98.0
生活介護	30	31	92.5	31	269	27.9	93.0
短期入所	5	10	40.0	11	365	1.5	30.0
日中一時支援		14		15			

2 区分による利用者予想

区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	2	1	27	30

3 職員配置予定（年度当初）

	施設長	副施設長	サビ管	生活支援員
実人数	1 (1)	(1)	1	26
常勤換算	0.9	(1.0)	1.0	22.5
	看護師	栄養士	事務員	合計
実人数	1	1	1 (1)	31
常勤換算	1.0	1.0	0.8	28.2

*施設長は支援センターやまばと、事務員は法人本部を兼務。伊トネアEPA介護福祉士候補生

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	防災委員会、広報委員会、研修委員会、施設管理者会、経営会議、生活ケア会議、未来検討会各グループ会議 他
施設関係	明るい未来検討会、主任者会、チーフ会、各ケース会、給食委員会、寮全体会（研修会含む）、防災委員会、虐待防止委員会、身体拘束委員会、事故防止委員会、感染症委員会、地域連携推進会議 他
外部を含む委員会	日本知的障害者福祉協会調査・研究委員会、静岡県障害福祉ナビゲーター、静岡県知的障害者福祉協会、志太榛原施設連絡会 他

F 年間事業（行事）計画

松浦先生音楽教室（毎月1回）、勝利さん音楽教室（毎月1回）、誕生会（2か月に1回）、運動会、開寮記念行事、外出行事、秋祭り、クリスマス会、新年会、お楽しみ会等を行う。また、赤堀医師・田代医師の来診（毎月1回）、健康診断（年2回）、インフルエンザワクチン接種、ブラッシング指導、訪問医療マッサージ（週5日）、望月理学療法士リハビリ（毎月1回）他を実施する。

G 研修計画

- 1 事業所内研修 明るい未来検討会の研修グループが企画、運営の研修を実施する。
- 2 法人内研修 法人研修委員会等が企画した研修に1企画につき最低1名は出席する。また、法人内の高齢者部門を含めた他事業所への実習を積極的に行う。
- 3 外部研修 職員1人につき、1回を目標として参加する。サポカレ等WEB研修を積極的に活用する。他事業所の見学を1か所以上、他事業所実習に最低1名を出す。

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

- 1 公益的取組み：坂部ふれあいサロンの送迎（運転）協力。内容は、毎月1回、施設車輛を使って、自宅からふれあいサロン会場の坂部区民センターまで送迎を行う。
- 2 地域との交流
 - (1) ボランティアの受け入れ：日赤奉仕団のボランティアを年3回、清掃や草取りなどの内容で、また、ちいさな親切運動のボランティアを受け入れる。
 - (2) 坂2町内会 毎月1回（土日は除く）開催される町内会常会に拠点で出席する。
 - (3) その他 お祭りなど地域行事、教育機関の古紙回収等への関わりを通して地域との交流を進め関係づくりに努める。

I 家族との連携、交流について

毎月、ご家族だより「どり〜む」を発行し、事業所からの連絡を定期的に届ける。年3回

のふれあい期間を設け、家族と利用者の交流を目的に一時帰宅をお願いしていくとともに、年2回の個別面談（モタソグ）や保護者総会を実施する。加えて、きずなネット連絡網をとおして、たより、通知や依頼事項などタイムリーに情報を届ける。短期入所については、きずなネットの登録100%目標とし、感染症発生時など、速やかに情報を周知できる体制を整える。

J 苦情について対策

前年度は、短期入所利用者様が紛失しないよう施設衣類を着用し肌荒れが発生したという苦情があった。相談部門を窓口として、苦情対応については、迅速かつ真摯に対応する。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- 1 事故：82件（前年度）：前年度比で約20%（20件）増加している。特定の利用者様の車いすからのずれ落ち（転落）が増えている。アセスメントや手順書の見直しなど個々の現状に合ったものを作成し、ニーズと支援内容のミスマッチによる事故の発生を防止する。
- 2 ヒヤリハット：32件（前年度）：前年度比で約6%（2件）増加している。他傷行為以外にも、転倒やけが、誤嚥のリスクが高いご利用者に多いことから、改めてその行動に至る理由や背景を考え、環境設定を改善することで減らしていく。
- 3 虐待：1件（前年度）：昨年度はコミュニケーション不足等を理由とした虐待が発生してしまった。この反省をもとに、引き続き、年2回の虐待チェックリストの実施と、困ったときに自ら「助けてください」と言える風通しよく、不適切な支援を放置しない事業所を作る。
- 4 身体拘束：1400件（前年度）：1か月平均の前年度比で約47%減少。「施設ゼロ」を目指すとともに、身体拘束委員会を中心として、引き続き身体拘束しなくてもよい支援を目指して見直しを進めていく。今後は「身体拘束ゼロ」を意識した取り組みを行う。

L 防災関連：防災訓練計画

防火管理者が中心となり、防災訓練を年2回以上実施し、防災倉庫の点検、必要物品の管理を行っていく。また、立地上、土砂災害警戒区域にあたるため、有事に機能することを前提とし、年1回以上は拠点事業所と連携の上で訓練を実施するとともに、前年度に引き続き坂部地区の地域防災訓練に関わりを持つ。

M 環境整備に関する計画

壁や床などの破損設備等の修繕、エアコン・換気扇の定期点検と清掃、床の清掃、建築設備の定期点検、その他経年劣化や機械設備の不具合箇所の修繕、また、清掃を重ね築30年目ではあるが清潔な環境とする。

N 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
収入については欠員補充と前年度並み。短期入所については、利用率を意識した受入れを行う。支出については、関係委員会を通して環境整備や修繕等に積極的に対応していく。
- 2 借入金償還計画 なし
- 3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 実習生：社会福祉士、介護福祉士、保育士等の専門職を目指す学生、また、おかえりプロジェクトに関連したインターシップ等、実習希望は積極的に受け入れる。
- 2 ボランティア：日赤奉仕団、ちいさな親切運動等、行事手伝いや草取り、花植え、窓ふき清掃などの環境整備や周辺業務などの個人ボランティアも積極的に受け入れる。

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- 1 システム「ほのぼのMORE」の有効活用：情報がシステム内で一元管理され、情報の共有と業務の効率化を進める。
- 2 同性介護（支援）の推進：夜勤（職員1名勤務）以外は、原則、同性介護（支援）が当たり前の環境となる。また、近い将来、夜勤2名体制の準備を進める。
- 3 ワークセンターあさがおに一部清掃業務を委託し、外部就労活動の場を提供する。

2026（令和8）年度事業計画

共同生活援助
わかば

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

1 事業所の重点目標

利用者の想いによりそい一人ひとりにとって、ゆったりと落ち着ける場となれるように温かく家庭的な環境づくりを推進します。

2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み

(1) 私たちの願いに対して

ご利用者の立場で希望を叶え、課題を解決するために積極的に働きかけが出来る人材を育成します。関係する機関と連携しご利用者様の生活の質の向上を目指します。

(2) 有事に機能する防災体制について

大規模災害を想定し、近隣施設との合同訓練を提案し実行する。単独訓練の場合でも応援要請し、日常から連携を視野に入れた支援協力を構築していく。

D 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年の 契約者数	昨年の 利用率	目標とする 利用者数	開所日数	一日平均	利用率
10名	10名	100%	10名	365日	10名	100%

区分による利用者予想 ※2月末実績で次年度を見込む

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	1	0	2	4	3

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	その他	合計
実人数	1(1)	1(1)	5(1)	4	1(1)	0	12(2)
常勤換算	0.1	0.1	4.2	0.9	0.2	0	5.5

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	施設管理者会、事故防止委員会、苦情解決委員会、生活ケア部会 防災委員会、未来検討会、虐待防止員会
施設関係	施設会議、感染症対策委員会、防災委員会、虐待防止委員会、 身体拘束適正化委員会
外部を含む委員会	牧之原市成年後見制度促進協議会、地域連携推進会議

F 年間事業（行事）計画

誕生祝い（毎月）、遠足（5月）、花火鑑賞（8月）、バーベキューパーティー（10月）

G 研修計画

施設内研修	虐待防止・身体拘束研修、BCP訓練（災害と感染症）、サポカレ動画視聴
法人研修	新年度研修、交通安全講習会、防災研修
施設外研修	強度行動障害支援者養成研修

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

毎月（第1日曜日）の海岸清掃ボランティア参加の継続。施設から発信する活動について、自分たちが地域に対して何が出来るか考え、継続できる活動を検討・実行する。

I 家族との連携、交流について

3ヶ月毎、施設の様子をお便りとして家族に届ける。

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数0件

定期的な家族への連絡期間を見直し、利用者家族とのコミュニケーション不足にならないように努める。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故：30件（前年度）

事故内容は転倒に関連する事故が多く、特定利用者の対応が課題となっている。防げる事故・対策できる事故を確実に防ぐことを目標に事故の減少を目指す。

(2) ヒヤリハット：17件（前年度）

事故を防ぐ気付きとしてもヒヤリハット報告を活用していく。快適な生活環境を提供する為にも、事故の芽を摘んでいく。

(3) 虐待：0件（前年度）

虐待の通報があった場合には、法人の虐待防止規定に基づき速やかに対応する。

(4) 身体拘束：0件（前年度）

身体拘束の理解に努め、身体拘束ゼロに向けての取り組みを継続する。

L 防災関連：防災訓練計画

(1) 土砂災害警戒区域であるため土砂・浸水災害を想定した訓練を定期的実施し、要配慮者利用施設避難確保、BCPに対応した訓練等も実施する。

(2) 消防署等関係機関に依頼し火災通報装置を使った訓練、消火訓練を実施する。

M 環境整備に関する計画

建物自主点検（1回/年）実施

N 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

強度行動障害支援者養成研修を受講し、重度障害者支援加算を取得する。

2 借入金償還計画 なし

3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

希望するボランティアの受け入れを進める。

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

(1) 地域連携推進会議の開催により地域とのつながりを深める。

(2) 給食業者を変更し、経費を削減する予定。

2026（令和8）年度事業計画

共同生活援助
もくれん

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

1 事業所の重点目標

利用者の想いによりそい一人ひとりにとって、ゆったりと落ち着ける場となれるように温かく家庭的な環境づくりを推進します。

2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み

(1) 私たちの願いに対して

ご利用者の立場で希望を叶え、課題を解決するために積極的に働きかけが出来る人材を育成します。関係する機関と連携しご利用者様の生活の質の向上を目指します。

(2) 有事に機能する防災体制について

大規模災害を想定し、近隣施設との合同訓練を提案し実行する。単独訓練の場合でも応援要請し、日常から連携を視野に入れた支援協力を構築していく。

D 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年の契約者数	昨年度の利用率	目標とする利用者数	開所日数	一日平均	利用率
10名	10名	98.0%	9.8名	365日	9.8名	98.0%

区分による利用者予想 ※2月末実績で次年度を見込む

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	0	5	4	1

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	その他	合計
実人数	1(1)	1(1)	3(1)	10	1(1)	0	16(2)
常勤換算	0.1	0.1	2.3	2.9	0.2	0	5.6

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	施設管理者会、事故防止委員会、苦情解決委員会、生活ケア部会 防災委員会、未来検討会、虐待防止員会
施設関係	施設会議、感染症対策委員会、防災委員会、虐待防止委員会、 身体拘束適正化委員会
外部を含む委員会	牧之原市成年後見制度促進協議会、地域連携推進会議

F 年間事業（行事）計画

誕生祝い（毎月）、バーベキューパーティー（5月）、花火鑑賞（8月）、ピュッフエパーティー（12月）

G 研修計画

施設内研修	虐待防止・身体拘束研修、BCP訓練（災害と感染症）、サポカレ動画視聴
法人研修	新年度研修、交通安全講習会、防災研修
施設外研修	強度行動障害支援者養成研修

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

毎月（第1日曜日）の海岸清掃ボランティア参加の継続。施設から発信する活動について、自分たちが地域に対して何が出来るか考え、継続できる活動を検討・実行する。

I 家族との連携、交流について

3ヶ月毎、施設の様子をお便りとして家族に届ける。

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数0件

定期的な家族への連絡期間を見直し、利用者家族とのコミュニケーション不足にならないように努める。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故：40件（前年度）

転倒に関わる件数が増加。ご利用者の状態・状況の変化を捉え、行動予測して防げる事故、対策できる事故を確実に防ぐ事を目標に事故の減少を目指す。

(2) ヒヤリハット：30件（前年度）

転倒未遂が増加、未遂にとどめるだけでなく被害を最小限に抑える事にも注力していく。

(3) 虐待：0件（前年度）

虐待の通報があった場合には、法人の虐待防止規定に基づき速やかに対応する。

(4) 身体拘束：0件（前年度）

身体拘束の理解に努め、身体拘束ゼロに向けての取り組みを継続する。

L 防災関連：防災訓練計画

(1) 日中・夜間における火災想定避難訓練を定期的実施し、要配慮者利用施設避難確保、BCPに対応した訓練等も実施する。

(2) 消防署等関係機関に依頼し火災通報装置を使った訓練、消火訓練を実施する。

M 環境整備に関する計画

建物自主点検（1回/年）実施

N 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

強度行動障害支援者養成研修を受講し、重度障害者支援加算を取得する。

2 借入金償還計画 なし

3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

希望するボランティアの受け入れを進める。

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

地域連携推進会議の開催により地域とのつながりを深める。

2026（令和8）年度事業計画

共同生活援助事業所
（介護サービス包括型）
みぎわ

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

1 事業所の重点目標

ご利用者にとっては住み心地の良い、地域の皆様にとってはあつてうれしい、職員にとっては働きやすい事業所をつくります。今後のご利用者、職員確保に取り組んでいく。

2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み

(1) 私たちの願いに対して

具体的な虐待事例や支援事例をもとにケース検討等を行い、ご利用者ひとりひとりをかけがえのない存在として重んじ、常にご利用者の立場に立ったサービスを提供する。

(2) 有事に機能する防災体制について

BCP をより具体的にする為、机上訓練、実技訓練を行なっていく。非常電源、生活用水の確保に重点を置いて備えていく。感染症予防についても継続して取り組んでいく。

D 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年の登録者数	昨年の利用者数	目標とする利用者数	開所日数見込み	一日平均見込み	利用率見込み
10	10	10	10	365	9.7	97%

区分による利用者予想 ※2月末実績で次年度を見込む

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	1	0	4	4	1

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	その他	合計
実人数	1(1)	1(1)	4(2)	8(3)	1(1)	0	15(8)
常勤換算	0.1	0.1	3.0	3.1	0.1	0	6.4

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	管理者会、事故防止委員会、苦情解決委員会、生活ケア部会、防災委員会、未来検討会、虐待防止委員会
施設関係	施設会議、感染症、防災、虐待防止・身体拘束適正化委員会、給食
外部を含む委員会	島田市暮らし部会、島田市高齢者・障害者虐待防止ネットワーク会

F 年間事業（行事）計画

花火鑑賞会（8月） クリスマス会（12月） 新年会（1月） 節分の会（2月）
誕生会（5、7、9、11、3月） お楽しみ会（4、6、10月）

G 研修計画

施設内研修	虐待防止・身体拘束年、感染症対策年2回、BCP訓練、サポカレ動画視聴
法人研修	新年度研修、交通安全講習会、経理・財務・労務研修、法律研修、防災研修、
施設外研修	普通救命講習、意思決定研修、ストレスマネジメント研修

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

- 1 公益的取組み：島田市社会福祉協議会を通して、大津地区住民の「買い物支援」。
- 2 地域との交流：お祭りなど地域の催し、にこにこしまだクリーン大作戦に参加。

I 家族との連携、交流について

保護者懇談会を開催し、情報の伝達や共有を行う。みぎわだよりを毎月発行。

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数0件

情報提供不足が、家族等に不安や不信感を与える為、積極的かつ迅速に情報提供を行う。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- (1) 事故：4件（前年度）
事故防止、改善対策の振り返りと評価を丁寧に行っていく。また職員へ周知していく
- (2) ヒヤリハット：23件（前年度）
事故予防の為に、小さなヒヤリにも気付いたら情報共有していく。
- (3) 虐待：0件（前年度）
年2回の虐待セルフチェック、委員会での振り返りを行う。
- (4) 身体拘束：4件（前年度）
年2回の振り返りを行い、拘束ゼロを目指していく。

L 防災関連：防災訓練計画

日中、夜間における火災想定での防災訓練（毎月）、要配慮者利用施設避難訓練（12月）、総合防災訓練（5月、2月）、法人全体（BCPに対応）訓練（10月）

M 環境整備に関する計画

建物自主点検（年1回 8～9月）非常電源確保の為、LPガス発電機導入

N 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
収入については、前年度途中でご利用者区分変更、重度障害者加算の取得で、前年度より増収が見込まれる。ただ最低賃金の上昇等から人件費の上昇が心配される。
- 2 借入金償還計画 なし
- 3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 実習生：前年度同様に法人内の他事業所からへの実習依頼があれば受ける。
- 2 ボランティア：社会福祉協議会への登録を行なう。

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

静岡県福祉指導課による実地指導が、前回から8年目となるため実施が予想される。
地域連携推進会議などで、地域とのつながりを深めていく。

2026（令和8）年度事業計画

生活介護事業所
ケアセンター花もも

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

- 1 事業所の重点目標
利用者と職員一人ひとりを大切にし、お互いを思いやり、尊重し合える事業所を目指す
- 2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み
 - (1) 私たちの願いに対して
一人で抱え込まない風土をつくり、障害特性への理解と事例共有を通してチーム力を高める。
 - (2) 有事に機能する防災体制について
近隣事業所と連携し、交流や合同訓練を重ねることで、安心して協力し合える関係性を構築する。

D 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者 ※1月末実績で次年度を見込む

定員	昨年の 契約者数	昨年度の 利用率	目標とする 利用者数	開所日数	一日平均	利用率
20名	19人	81.3%	20人	253日	16.4人	82.0%

区分による利用者予想 ※1月末実績で次年度を見込む

区分3	区分4	区分5	区分6
0	2	9	9

- 2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	事務員	合計
実人数	1	1	8 (1)	1	1 (1)	12 (2)
常勤換算	0.3	1.0	6.8	0.5	0.3	8.9

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	施設管理者会、事故防止委員会、苦情解決委員会、生活ケア部会、編集委員会、防災委員会、未来検討会、虐待防止委員会
施設関係	職員会議、給食検討会、給食委員会、ケース会
外部を含む委員会	吉田町・牧之原市自立支援協議会

F 年間事業（行事）計画

運動会（6月）納涼祭（8月）ハロウィン仮装大会（10月）そば打ちの会（11月）クリスマス会 フラワーアレンジメント（12月）お楽しみ会（3月）喫茶会（誕生日月）誕生会（毎月）笑いヨガ（隔月）小Gr 外出外出（未定）

G 研修計画

施設内研修	感染症対策研修及びBCP訓練、防災研修及びBCP訓練、虐待防止研修 サポーターズカレッジ 支援者会議内研修（12回/年）
法人研修	新年度全体研修、交通安全講習会、経理・財務研修、法律研修、中堅職員研修、防災研修、労務研修
施設外研修	強度行動障害研修、権利擁護研修、大塚製菓熱中症アンバサダー

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

坂部サロン送迎（毎月）『カフェこむぎ』協力事業所
放課後等ディサービス『ひまわり吉田南校』との交流 坂口屋川かかし祭り出展

I 家族との連携、交流について

保護者会（2回/年）花ももだより発行（毎月）行事便り発行（号外号） 行事への招待

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数0件
ご利用者、保護者、関係機関等コミュニケーションを取りながら良好な関係の維持継続

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

（1）事故：12件（前年度）

散歩中の転倒 けがが多かった為注意喚起や手つなぎ等の配慮を行う

（2）ヒヤリハット：131件（前年度）

興奮しての他害が多かったためエリア分けや原因とならないような環境設定を図る

（3）虐待：0件*家庭内での出来事1件（前年度）

ご利用者の精神面体調面の異変に早めに気けるように心がけると共に家族が抱える困りごとなどにも関係機関と連携を取りながら対応していく

（4）身体拘束：1190件（前年度）

車いす使用時の安全確保が主目的だが定期的に検証し拘束場面の減少を図る

L 防災関連：防災訓練計画

防災訓練 火災、地震（毎月）災害BCP研修及び訓練

M 環境整備に関する計画

建物自主点検（8月～9月）フローワックスがけ（8月）、防虫駆除（5月～10月）
エアコン掃除 雨水タンク設置

N 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
重度加算、人員配置体制加算の継続取得及び日中一時支援サービスの提供
- 2 借入金償還計画 なし
- 3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

実習生：吉田特別支援学校職場実習 インターンシップ受入れ
ボランティア：おはなしポップ（毎月） 雙葉学園クリスマス訪問

P その他 （主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

2026（令和8）年度事業計画

生活介護事業所
ケアセンター野ばら

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切にし、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

- 1 事業所の重点目標
「お互いに支え合い統一した支援で、利用者様・職員共に安心して過ごせる事業所作り」
- 2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み
 - (1) 私たちの願いに対して
 - ①障害特性を含めた個性の把握や理解を進め、日々の活動内容に活かしていく。
 - ②ICTを活用し丁寧な記録を積み重ね、理解を進め意思決定支援にもつなげていく。
 - ③垂穂寮・みぎわとの連絡会議の実施。また、みぎわと野ばらで職員が兼務することで、スムーズな情報共有を図る。
 - (2) 有事に機能する防災体制について
 - ・要配慮者利用施設の避難確保計画を随時見直し、有事に対応できる体制を作る。
 - ・垂穂寮・みぎわとも連携し「応援体制シート」に基づいた訓練を行いたい。
 - ・非常食に関して、垂穂寮と共同しながらも、独自で備蓄し備えていく。

D 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年の登録者数	昨年の利用率	目標とする利用者数	開所日数見込み	一日平均見込み	利用率見込み
20	20	90%	20	253	18	86%

区分による利用者予想 ※2月末実績で次年度を見込む

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	0	3	5	11

- 2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	9	0	1	2	14
常勤換算	1	1	6.09	0	1	1.1	10.2

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	施設管理者会・事故防止委員会・苦情解決委員会・虐待防止委員会 生活ケア部会・防災委員会・未来検討会
施設関係	通所会議・ケース会・感染症委員会・防災委員会・身体拘束適正化委員会・正職準職会議
外部を含む委員会	島田市自立支援協議会・県知的障害者福祉協会（日中支援部会等）

F 年間事業（行事）計画

動物ふれあい（5月） クッキング（6月） 七夕の会（7月） スポーツ大会（9月）
秋まつり（10月） バス旅行（11月） 愛護ギャラリー展・クリスマス会（12月）
新年会（1月） 節分の会（2月） お疲れ様会（3月） レクダンス・リフレクソロジー

絵画教室（毎月）・PTによるリハ（3ヶ月毎）

G 研修計画

施設内研修	感染症対策及びBCP訓練、防災研修及びBCP訓練、虐待防止研修、身体拘束防止研修 サポーターズカレッジ（意思決定支援等）
法人研修	新年度全体研修、交通安全講習会、経理・財務研修、法律研修、中堅職員研修、防災研修、労務研修等
施設外研修	強度行動障害（実践）研修、日中活動支援部会研修、ハラスメント研修、アサーティブコミュニケーション研修、メンタルヘルス等

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

(1) 公益的取組み

- ・前年度同様、垂穂寮と協力し、島田市福祉協議会を通して、大草市営住宅団地住民の「買い物支援」の為に公用車を提供する。

(2) 地域との交流

- ・にこにこしまだクリーン作戦に参加し、清掃活動を行う。また大津小学校の古紙回収や、地域の草取りやお祭りなど積極的に参加していく。

I 家族との連携、交流について

- ・月に1回開催される保護者会に参加し、情報を発信・共有していく。また、連絡ノートや野ばらだより（毎月）、InstagramやFacebookを活用し、活動を報告していく。

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

- ・前年度苦情件数1件
事業所側から、話掛けをする際は、常にご本人様やご家族に配慮し、憶測ではなく事実に基づいた内容で話し、ご理解ご協力が得られるように努める。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故：38件（前年度）

転倒、他害などが多かった。転倒は自力での歩行が不安定になってきた方が、増えてきたことも要因の為、ホールでの見守りを強化し防止に努めていく。

(2) ヒヤリハット：25件（前年度）

歩行不安定な方の単独歩行や転倒未遂が多かった。職員間で声を掛け合い、ご利用者の動きに合わせて対応ができるようにし、怪我に至らないようにしていく。

(3) 虐待：0件（前年度）

虐待チェックシート等の活用、会議で虐待の芽となる「小さな出来事」を共有し合う。

(4) 身体拘束：308件（前年度）

車椅子での安全ベルトが、ご本人の安全な着座姿勢保持のため必要な工夫の結果であることを関係者で共有していくなど、身体拘束について半年に1回検討していく。

L 防災関連：防災訓練計画

- ・毎月訓練を行い、職員の動きを確認し課題の発見改善を行っていく。また、引き渡し訓練も年に1回実施。感染症BCPや原子力災害避難計画の机上訓練も行っていく。

M 環境整備に関する計画

- ・照明器具のLEDへの順次交換
- ・建物自主点検（8～9月）異常の早期発見に努める。 敷地内の草取り（5・11月）

N 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
 - ・2026年2月末で1名、退所される。その後新規の利用予定に関しては、3月から週1回のお試し利用をへて契約予定。ただ、週に2日程度からの利用予定。
重度障害加算の取得を目指し、準備をしており、4月から始めていく予定。
- 2 借入金償還計画 なし
- 3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- (1) 実習生：法人内の他事業所や教育機関、または特別支援学校からの実習依頼があれば、積極的に受け入れていく。
- (2) ボランティア：見守り活動補助、環境整備、タクティールなど受け入れていく。

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- ・静岡県福祉指導課による実施指導が、前回から7年目になるため実施が予想される。

2026（令和8）年度事業計画

生活介護
ケアセンターかたくりの花

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

1 事業所の重点目標

一日の始まり笑顔で気持ち良いあいさつを交わす事から安心・安全・信頼へとつなげ、誰もが「今日楽しかった。明日も楽しみだね。」と明日につなげる。

2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み

- (1) 私たちの願いに対して：ご利用者一人ひとりの思いを受け止める為には、小さなサインを引き出し誰もが気持ちを伝えることで喜びを感じ、充実した日中活動を提供する。
- (2) 有事に機能する防災体制について：職員は他職員の動きを確認しながら率先して避難対応するため、毎月の防災訓練を積み重ねる。送迎時の防災研修や体験訓練も実施。

D 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年の登録者数	昨年の利用者数	目標とする利用者数	開所日数見込み	一日平均見込み	利用率見込み
20	19	3839	20	253	16.7	93%

区分による利用者予想 ※2月末実績で次年度を見込む

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
					9	8

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	事務員	その他	合計
実人数	1	1 (1)	12 (1)	1	1		15
常勤換算	0.4	0.6	8.9	0.1	0.35		10.35

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	管理者会議、生活ケア部会、未来検討会、事故防止委員会、苦情解決委員会、虐待防止委員会、防災委員会、事務連絡会
施設関係	ケース会議、職員全体会議、
外部を含む委員会	志太榛原地域自立支援推進（重心支援専門部会）、島田市重心部会 医療的ケアコーディネーター

F 年間事業（行事）計画

季節の行事と自然体験、リフレ、笑いヨガ。音楽活動毎週水曜。スノーブレン毎週金曜。

G 研修計画

施設内研修	防災・感染症 BCP 訓練、熱中症・救急法研修、サポカレ研修（虐待・障害特性・意思決定支援・事故ヒヤリ・防災・てんかん・記録の書き方と活用等）
法人研修	新人職員オリエンテーション、新年度全体研修、交通安全講習会、経理・財務研修、中堅職員研修、防災研修、労務研修、法律研修、管理者研修
施設外研修	強度行動障害研修、多種職連携研修、実践研修報告（富士見学園）、法人内他事業所実習・研修参加、熱中症アンバサダー研修、送迎時の防災

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

2026 喫茶こむぎ：地域交流地域支え合い事業（開店準備：季節の飾りつけ作成）
地域の方々へ夏まつりやクリスマス会招待、季節ごとの声掛け訪問を行う。

I 家族との連携、交流について

お便り「風さゆる」を毎月発行と 3 回/年第三金曜日に保護者会。1 回/年引き渡し訓練と大掃除実施。また、クリスマス会で演奏を楽しむ。20 周年記念として食事会を開き祝う。

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数 2 件：苦情により地域の方々が気にかけて見守ってくださっていることが分かり、かたくりの花の協力者としてコミュニケーションを深める。また、苦情になる前の対応として、ご家族に気になることや困っている事が無いかの声掛けを継続する。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- (1) 事故：2 件（前年度）
送迎後車輛事故があったため、運転中も帰設するまで気を抜かず安全運転を意識する。
- (2) ヒヤリハット：37 件（前年度）
職員間の連携が不十分によるヒヤリが多く、持ち場を離れる時や応援が必要な時はしっかりと声を出し伝える協力体制を作る。
- (3) 虐待：0 件（前年度）
問題行動の対応はご利用者の気持ちに寄り添い、統一した支援とチームで対応する。
- (4) 身体拘束：1101 件（前年度）
車椅子乗車時は、体幹保持の為に胸腰ベルト等使用については家族の同意書を得ると共に、記録を取りケース会や職員全体会議にて確認し、身体拘束 0 への意識付けに努める。

L 防災関連：防災訓練計画

防災訓練を毎月第四金曜日に実施。建物被害を想定し外部での引き渡し訓練や災害伝言ダイヤルを体験する。総合訓練として 1 回/年 BCP 訓練を実施する。

M 環境整備に関する計画

本館と作業棟シーリング外壁塗装修繕（8 月） 庭木の剪定（7 月） インカム導入する（10 月） カーテンリース満了新規契約（6 月） PC3 台リース満了新規購入（5 月）

N 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）：昨年度 3 名が途中他事業所に移行となり利用率減。今年度新規 1 名が契約となる。職員配置体制を 2.5 : 1 から 2 : 1 へと変更と年齢と共に区分が上がり重度化するご利用者が増えたことで、収入への影響は少ない。
- 2 借入金償還計画 なし
- 3 本部が法人全体の資金を有効に活用する時、2026 年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- (1) 実習生：特別支援学校生職場体験、常葉大学保育学部実習を積極的に受け入れる。
- (2) ボランティア：絵本読み聞かせ、庭の草刈、動物ふれあい訪問は継続して依頼。

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと）なし

2026（令和8）年度事業計画

生活介護事業所
ケアセンターコスモス

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応えていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

1 事業所の重点目標

働くことの喜びやその価値を、ご利用者、職員が実感できるよう努めていく。
地域に根差した事業所として、今後も事業所内外の方との結びつきを大切にしながら、
ご利用者、職員が地域の一員として輝ける事業所を目指す。

2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み

- (1) 私たちの願いに対して
現在受注できている仕事を継続し、その対価として工賃を支払い、仕事に対する意欲が継続できるように支援する。また、仕事以外にもご利用者のやりたいことや強みを生かした活動を積極的に取り入れていく。
- (2) 有事に機能する防災体制について
日常的にご家族やグループホーム等との連絡を密に行い、有事が起きた際にも安否の確認やスムーズな引き渡しができ、ご利用者の安心につなげられるよう確認しておく。
また、ご利用者が住まいに戻れないことも想定し、非常備蓄品の確認も定期的に行い、かつそれらを使用した BCP に沿った訓練も実施していく。

D 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年度 登録者数	昨年度の 利用率	目標とする 契約者数	開所日数 見込み	一日平均 見込み	利用率 見込み
20	15	67.3%	15	253	14.5	70%

区分による利用者予想 ※2月末実績で次年度を見込む

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
		2	1	9	3	

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	5		(1)	(1)	9
常勤換算	1	1	2.85		0.5	0.1	5.45

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	経営会議、施設管理者会、事故防止委員会、苦情解決委員会、生活ケア部会、研修委員会、編集委員会、防災委員会、未来検討会、虐待防止委員会
施設関係	職員会議、感染症委員会、防災委員会、身体拘束適正化委員会
外部を含む委員会	島田市自立支援協議会部会

F 年間事業（行事）計画

- ・誕生会（毎月） ・表彰式（4月） ・カラオケ大会（5月） ・交通安全教室（6月）
- ・七夕（7月） ・ハロウィン（10月） ・クリスマス会（12月） ・新年会（1月）
- ・節分（2月） ・バレンタインデー（2月） ・ホワイトデー（3月）
- ・市政出前講座（5月、7月） ・個別体験学習（全ご利用者1回/年）

G 研修計画

施設内研修	感染症対策研修及びBCP訓練、防災研修およびBCP訓練、虐待防止研修、リスクマネジメント研修、
法人研修	新年度全体研修、中堅職員研修、防災研修、労務研修、経理財務研修、
施設外研修	障害特性研修、自閉症研修

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

- ・地元企業から受託を受けている仕事を継続し、できる限り正確な納品により、今後も信頼を得られるような取り組みを継続する。
- ・第2地区民生委員との交流会や放課後等デイサービス「ひまわり」島田校との交流。

I 家族との連携、交流について

- ・毎日の連絡ノートでの様子の報告と随時の連絡。
- ・月1回のコスモス便りの発行と年2回の保護者会の開催

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数1件。

送迎時の運転について、特に住宅地においては、対人、対物への細心の注意を払うこと、車の騒音等にも配慮していく。また、いち早く対応すること、丁寧な対応を心がける。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故：5件（前年度）

玄関先での転倒が2件あったことから、特に受け入れ時や帰りの送り出し時、外出時等、職員が必ず付き添い必要な介助がすぐにできる体制を整える。

また職員の連絡や確認不足により発生した事故もあったため、無線機を積極的に使用した連絡や報告とともに、確認がしやすいようにチェックシート等を活用していく。

(2) ヒヤリハット：22件（前年度）

大きな事故に至らぬよう、早期発見と早期対応に努める。

(3) 虐待：0件（前年度）

虐待防止委員会の定期開催やセルフチェック、職員研修の強化、利用者の声を反映する仕組みづくりを進め、早期発見と未然防止に取り組んでいく。

(4) 身体拘束：82件（前年度）

一部ご利用者の他利用者への過度な干渉を防ぐため、作業や活動スペースを個室で対応するものであった。個別対応により、1月にはその必要性もなくなったことから、今後も特に困難なケースについてはチームでの検討を繰り返し、身体拘束の必要性を検討すると同時に、ご本人にとって望ましい支援が実現できる取り組みを継続していく。

L 防災関連：防災訓練計画

月1回の火災、あるいは地震を想定した訓練を実施する。また、BCPに即した訓練も行き、日頃からの準備やいざというときの初動対応がスムーズにできるようにしておく。

M 環境整備に関する計画

- ・2027年の蛍光灯製造中止に伴い、施設内のLED化を進める。
- ・事務処理や記録管理、直接支援における見守り等職員の負担が軽減できるよう、ICT化をさらに推進する。
- ・送迎に関し、職員の負担軽減や効率化を図るため、公用車1台を軽自動車から6人乗りの普通車に変更する。

N 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

4月1日より新規利用者1名を迎え入れる。そのため昨年度末よりは若干であるが収入の増加は見込まれる。引き続き新規利用者を受け入れること、また、現状の給付費収入に見合った人員配置を行い収益の改善を図っていく。

2 借入金償還計画 なし

3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

常葉大学保育実習生、島田市立看護専門学校生、清流館高校 押尾恵様

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

建物自体は市が管理しているため、必要な修繕や工事については都度島田市に確認する。

2026（令和8）年度事業計画

就労継続支援A型事業所
ワークセンターカサブランカ

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

1 事業所の重点目標『ご利用者、職員が共に安心、安全に働き、夢と希望を持てる事業所』

2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み

(1) 私たちの願いに対して

ご利用者、職員共に働く仲間であり、一人一人を大切に、力を合わせて行く。

- ・福祉事業所並びに就労支援の事業所の職員としてふさわしい接遇、関わり方を職員全員で学んでいく。また随時業務の見直し、役割を検討し、意欲をもってご利用者の支援、業務に当たれるようにする。
- ・ご利用者の作業能力の向上の他、一般就労に必要な常識（身だしなみやルール）の習得や経験を増やすことを目的とした作業、体験実習を進めていきたい。また今年度も最低1名の一般就労を目標とする。就職されている方へのフォローアップ（定着支援）も6ヶ月経っても継続的に行い、長く働き続けられるように支援する。

(2) 有事に機能する防災体制について

- ・防災マニュアル、事業所のBCPの見直しを行い有事の際に備える。
- ・災害防災用品を実際に活用した防災訓練を実施する。ご利用者にも必要最低限の使い方などレクチャーする。

D 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者 ※1月末実績で次年度を見込む

定員	昨年の契約者数	昨年度の利用率	目標とする利用者数	開所日数	一日平均	利用率
15	11	64.8	15	245	12	80.0

区分による利用者予想 ※1月末実績で次年度を見込む

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
11	0	0	4	0	0	0

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	1	3	(1)		7
常勤換算	1	1	0.6	2.6	(0.5)		5.7

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	施設管理者会、事故防止委員会、苦情解決委員会、作業就労部会、防災委員会、未来検討会、虐待防止委員会
施設関係	職員会議、感染症委員会、防災委員会、身体拘束適正化委員会・虐待防止委員会

外部を含む委員会	島田市しごと部会、
----------	-----------

F 年間事業（行事）計画

夏の慰労会（8月）クリスマス会（12月）日帰り研修旅行（3月）
ご利用者講習会（時期未定）交通安全講習、ブラッシング講習、感染症講習、食生活講習

G 研修計画

施設内研修	感染症対策研修及びBCP訓練、防災研修及びBCP訓練、虐待防止研修 サポーターズカレッジ（障害特性、接遇マナー等）
法人研修	新年度全体研修、交通安全講習会、経理・財務研修、法律研修、中堅職員研 修、防災研修、労務研修、接遇研修
施設外研修	権利擁護虐待防止研修、就労支援研修、実技技能講習

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

阿知ヶ谷・東光寺ふれあい広場参加（5月）ニコニコクリーン大作戦（12月）

I 家族との連携、交流について

カサブランカだより（毎月発行）

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

苦情があった場合は、「苦情解決マニュアル」に沿って迅速かつ適切に対応するとともに、
苦情に対しては、市町が行う調査に協力し改善に努める。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故：2件（前年度）器物破損、指切創怪我

(2) ヒヤリハット：2件（前年度）擦り傷、カッター紛失

事故、ヒヤリハットの事案があった場合は、速やかに報告書を作成し、職員全体で情報を
共有し再発防止に努める。必要に応じてご利用者にも報告し重大な事故、怪我につながら
ないよう に事業所全体で取り組んでいく。

(3) 虐待：0件（前年度）

(4) 身体拘束：0件（前年度）

虐待、身体拘束と思われる事象があった場合は、関係法令及び法人が定める「虐待防止・
対応マニュアル」に基づき、迅速かつ適切に対応する。日頃から意識を高め虐待防止に努
める。2回/年虐待防止委員会を開催、セルフチェックを行う

L 防災関連：防災訓練計画

「地震・津波・緊急対応マニュアル」「災害時事業継続計画書（BCP）」「消防計画書」に基
づき対応し、毎月の防災訓練、年1回の総合防災訓練及び備蓄品の点検を実施する。

M 環境整備に関する計画

建物自主点検（1回/年）島田市から借用している設備であるが、利用者がその能力を発揮
し作業が円滑にできるように作業場の整備環境改善を随時行う。

N 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

利用率を上げて、収入を安定的にする。

2 借入金償還計画 なし

3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

特別支援学校生徒、福祉体験実習、ボランティアについては積極的に受け入れていく。

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

特になし

2026（令和8）年度事業計画

就労継続支援 B 型事業所
ワークセンターなのはな

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

1 事業所の重点目標 「ひとりひとりの可能性を發揮し、自分らしい『働く』を考える」

2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み

- (1) 私たちの願いに対して
ひとりひとりの思いを尊重し、多様な働き方や活動ができる場所を提供する。
 - ①施設外就労場所を開拓し、多様な働き方ができる環境を整備する。個々の強みや可能性を広げ、能力・生活意欲の向上を図る。
 - ②ワークセンターやまぼとの自主製品の販売をすることで、働くモチベーションアップを図る。社会性を養い充実感を感じる機会、又、地域への周知機会とする。
- (2) 有事に機能する防災体制について
送迎時の防災マニュアル修正。シミュレーション実施等、有事に備える。
事業所待機利用者家族・GH との連絡方法等検討し共有する。

D 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年の 契約者数	昨年の 利用者率	目標とする 利用者数	開所日数 見込み	一日平均 見込み	利用率 見込み
30	30	91.1	30	250	27.6	92.0

区分による利用者予想 ※2月末実績で次年度を見込む

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
17	0	2	4	6	1	0

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1 (0.5)	3	8 (1)	1	0	12 (2)
常勤換算	0.5	0.5	2.3	5.0 (0.8)	0.2	0	8.5

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	施設管理者会、作業就労部会、事故防止委員会、苦情解決委員会、虐待防止委員会、研修委員会、編集委員会、防災委員会、未来検討会
施設関係	職員会議、感染症委員会、身体拘束適正化委員会、
外部を含む委員会	島田市しごと部会

F 年間事業（行事）計画

自立や社会性を養うための行事、工場見学、買い物訓練など（日時未定）

G 研修計画

施設内研修	感染症対策研修及びBCP訓練、防災研修及びBCP訓練、虐待防止研修 身体拘束研修、障害特性研修、救命講習、サポーターズカレッジ、
法人研修	新年度研修、交通安全講習会、経理・財務研修、法律（労務）研修、防災研修、
施設外研修	障害特性研修、権利擁護研修、感染症研修、

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

島田市一斉川ざらい、横井町・第3地区クリーン作戦（ゴミ拾い・清掃作業）、行事招待、民生委員交流会、法人地域貢献活動参加（年4回程度）

I 家族との連携、交流について

保護者連絡会、行事招待、月予定・行事報告配布

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

苦情申し立てがあった場合は、法人の苦情解決委員会が定める指針に沿い、迅速且つ適切な対応をする。地域との良好な関係構築に努める。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策**(1) 事故：12件（前年度）**

リスクマネジメントについて、全職員が事故防止に向けて取り組み業務改善を図る。利用者状況の把握と共有に努め、利用者間トラブル・事故を未然に防ぐ対策を講じる。

(2) ヒヤリハット：7件（前年度）

些細な情報でも効果的に収集し、事故防止に活用する。

(3) 虐待：0件（前年度）

マニュアルに沿って対応し、虐待防止委員会でセルフチェックや検討の機会をもつ。又、人権尊重や意思決定支援について職員間で共有する。

(4) 身体拘束：0件（前年度）

マニュアルに沿って対応し、虐待防止委員会でセルフチェックや検討の機会を持つ。

L 防災関連：防災訓練計画

防災訓練（月1回）自主点検（毎日）防災パトロール（年1回）消防点検（年2回）
地域防災訓練（年1～2回）

M 環境整備に関する計画

建物自主点検（年1回）、室内清掃（12月）空調（エアコン・防塵機器）点検・清掃

N 収支、並びに、借入金返済計画**1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）**

- ・能力向上・社会生活に必要な知識・常識・文化を学ぶ場の提供（教育指導費）
- ・労働環境改善のための設備・道具
- ・施設外就労の為の公用車（リース）

2 借入金償還計画 ・下記の長期借入金を2026年4月中に全て返済予定。

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	前年度末償還済額	当年度償還額	残額
2017/4/25	1.31636	25年	静岡銀行	78,000,000	27,820,000	50,180,000	0

（3月末予定）

3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。**O 実習生やボランティアに関する見込みや計画**

各種学校の体験学習・福祉体験実習・単位実習、特別支援学校生実習、社協・学生ボランティア等積極的受け入れ

**P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）
特になし**

2026（令和8）年度事業計画

就労継続支援 B 型事業所
ワークセンターあさがお

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

- 1 事業所の重点目標
ご利用者、職員ひとりひとりの声を拾い、協力し合い個々が活躍できる環境を作る。
- 2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み
 - (1) 私たちの願いに対して
生産的活動を通じ月の振り返りを行うことによりご利用者と職員が個々の成長や課題を確認していく。
 - (2) 有事に機能する防災体制について
研修や訓練を通しBCPの周知、定着を目指す

D 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年の 契約者数	昨年度の 利用率	目標とする 利用者数	開所日数 見込み	一日平均 見込み	利用率 見込み
20	16	84	20	253	16	80

区分による利用者予想 ※2月末実績で次年度を見込む

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
4	0	0	10	3	0	0

- 2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	1	8 (2)	1		12 (2)
常勤換算	1	1	1	4.2 (1.7)	0.2		7.4 (1.7)

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	施設管理者会、作業就労部会、事故防止委員会、苦情解決委員会、虐待防止委員会、防災委員会、未来検討会
施設関係	職員会議、感染症委員会、防災委員会、虐待防止・身体拘束適正化委員会
外部を含む委員会	島田市自立支援協議会しごと部会

F 年間事業（行事）計画

作業の振り返り（毎月）、体操教室・笑いヨガ（各3回/年）

G 研修計画

施設内研修	感染症対策研修及びBCP訓練、防災研修及びBCP訓練、虐待防止研修 サポーターズカレッジ（障害特性等）
法人研修	新年度全体研修、交通安全講習会、経理・財務研修、法律研修、主任等研修、 防災研修、労務研修
施設外研修	希望・必要に応じて申し込み・参加

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

文化祭出品、民生児童委員との交流会、体操教室・笑いヨガの開催（各3回/年）。

I 家族との連携、交流について

保護者会、毎月あさがおカレンダー配布。

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数0件

法人苦情解決委員会が定めるマニュアルに沿って迅速かつ適切に対応する。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故：3件（前年度）

事案があった場合は速やかに報告書を作成・回覧し職員全員に
周知し職員会議で対策の評価を行い再発防止に努める。

(2) ヒヤリハット：6件（前年度）

事案があった場合は速やかに報告書を作成・回覧し職員全員に
周知し職員会議で対策の評価を行い再発防止に努める。

(3) 虐待：0件（前年度）

定期的に研修を行い、支援について職員間の悩みを共有する場とする。

(4) 身体拘束：2件（前年度）

定期的に研修を行い、支援について職員間の悩みを共有する場とする。

L 防災関連：防災訓練計画

- 1 様々な想定で毎月1回の訓練を実施。
- 2 BCPについて研修・訓練を行い、都度見直す。
- 3 絆ネット（緊急メール）の浸透の為、活用を工夫。

M 環境整備に関する計画

建物自主点検（8～9月）、浄化槽点検・管理（委託）

N 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
定員に4名の空きがあり、入院等で通所継続が危ぶまれるご利用者もいる為、新規利用者獲得に努める。
- 2 借入金償還計画
借入金はないが土地賃借料が1,230,600円/年（毎月102,550円/月）の支払いあり。
- 3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- ・定期的に来て下さる地域のボランティアの方々を大切にし、交流の機会を継続する
- ・特別支援学校やその他、学生の実習先として積極的に協力する

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等） なし

2026（令和8）年度事業計画

就労継続支援B型事業所
ワークセンター希望の家

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

1 事業所の重点目標

本人理解を深め、寄り添い、求めに応じる支援をする

2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み

(1) 私たちの願いに対して

個を捉える視点を育て、求めに気づき応える支援力をつける。アセスメント力・ストレングス視点・リフレーミング技術等について研修を実施、支援の土台を強化する。

(2) 有事に機能する防災体制について

地域に開かれた施設を目指し、地域行事参加。有事の際に近隣の福祉施設や公共施設と連携が取れる関係づくりに努める。研修訓練を通してBCPや備蓄品・環境の見直しを行い、より現実に即した防災体制を整える。窓ガラスへ飛散防止フィルム対策を施す。

D 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年の契約者数	昨年度の利用率	目標とする利用者数	開所日数	一日平均	利用率
20名	21人	94.0%	21人	250日	18.8人	94.0%

区分による利用者予想 ※2月末実績で次年度を見込む

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
5	0	5	2	4	5	0

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	3 (1)	5 (1)	1		11 (2)
常勤換算	0.5	0.5	2	3.25 (1.0)	0.125		6.175 (1.0)

※（ ）は兼務者を示す 施設長・サビ管・事務員希望の家と兼務

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	施設管理者会、作業就労部会、事故防止委員会、苦情解決委員会、虐待防止委員会、防災委員会、未来検討会
施設関係	職員会議、感染症委員会、身体拘束適正化委員会、虐待防止委員会
外部を含む委員会	島田市自立支援協議会しごと部会、川根本町保健・福祉サービス推進協議会

F 年間事業（行事）計画

家族に感謝の日（5月）スポーツ大会（5月11日）交通安全教室（6月1日）
歯磨き教室（7月2日）クリスマス会（12月）買い物訓練（3月）

G 研修計画

施設内研修	身体拘束・虐待防止研修、感染症対策研修及びBCP訓練、防災研修及びBCP訓練、サポカレ（障害特性、コミュニケーション技術、リフレーミング）
法人研修	新年度研修、交通安全講習会、労務研修、法律研修、防災研修、接遇研修
法人外研修	経理・財務研修、支援技術研修

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

ここにくクリーンしまだ大作戦、絆フェスタ maru、金谷公民館まつり
法人地域貢献活動参加（年4回程度）

I 家族との連携、交流について

施設日より発行、保護者会、クリスマス会

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数0件

ご利用者・ご家族・受託企業・関係関連先とコミュニケーションを取り信頼関係を築く。
苦情があった場合は苦情解決委員会が定める指針に沿って迅速かつ適切に対応する。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

（1）事故：3件（前年度）

職員会議等において、報告書確認及び対応策の評価を実施。原因追及や環境の改善に努め、職員間の共有とPDCAを繰り返すことで発生件数減少に取り組む。

（2）ヒヤリハット：1件（前年度）

職員会議等において、報告書確認及び対応策の評価を実施。「気づき」の視点を職員全員が持ち事故防止に講ずる。

（3）虐待：0件（前年度）

年1回以上の虐待防止研修を実施。定期的に虐待防止委員会や職員セルフチェックを行い、普段の支援の見直しや虐待につながる支援などについて話し合う。

（4）身体拘束：2件（前年度）身体拘束同意書、ご家族同伴

（利用者Aさん1件、健康診断採血時に腕を押さえる、視線を外す対応）

（利用者Bさん1件、健康診断採血時に腕、肩を押さえる対応）

身体拘束適正化委員会を開催し、適正化と身体拘束なしの対応が取れるよう取り組む。

L 防災関連：防災訓練計画

ふれあいと合同BCP訓練、引き渡し訓練、毎月防災訓練、年2回総合防災訓練
送迎中の発災に備える（ルート上の危険個所、避難可能地をまとめたMAP作成他）

M 環境整備に関する計画

防災点検（8月2日）建物自主点検（8月～9月）エアコン清掃（秋）クロス貼り替え

N 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

登録者数21名、内2名は週2.3日利用であり、高齢者も多いため変動の可能性は高い。
引き続き利用実習生や見学者を積極的に受け入れ、利用者獲得に努める。

2 借入金償還計画 なし

3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

特別支援学校生徒や一般在宅障害者の実習、ボランティア

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

2026（令和8）年度事業計画

就労継続支援B型事業所
ワークセンターふれあい

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

- 1 事業所の重点目標
それぞれの多様なニーズに対し、自己実現につながる支援をする。
- 2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み
 - (1) 私たちの願いに対して
ご利用者・地域の変化やニーズを受け止め、可能性を広げると共に自己実現を目指す。
職員間で共有・検討を行い、支援の統一や支援スキルの標準化を図る。
 - (2) 有事に機能する防災体制について
有事の際に連携が取れるよう地域とつながりをもち、顔の見える関係性を築く。
研修訓練を通してBCPや備蓄品・環境の見直しを行い、より現実的に即した防災体制を整える。窓ガラスへ飛散防止フィルム対策を施す。

D 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年の 契約者数	昨年度の 利用率	目標とする 利用者数	開所日数	一日平均	利用率
15名	13人	58.5%	13人	250日	11.6人	77.3%

*昨年度の利用率は定員20名に対し、今年度の目標利用率は定員15名で算出
区分による利用者予想 ※2月末実績で次年度を見込む

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
4	1	3	0	5	0	0

- 2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	1	1		6 (1)
常勤換算	0.5	0.5	1.875	0.75	0.125		3.75

※（ ）は兼務者を示す 施設長・サビ管・事務員希望の家と兼務

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	施設管理者会、作業就労部会、事故防止委員会、苦情解決委員会、虐待防止委員会、防災委員会、未来検討会
施設関係	職員会議、感染症委員会、身体拘束適正化委員会、虐待防止委員会
外部を含む委員会	島田市自立支援協議会しごと部会、川根本町保健・福祉サービス推進協議会

F 年間事業（行事）計画

家族に感謝の日（5月）交通安全教室（6月1月）歯磨き教室（7月2月）
スポーツ大会（10月）クリスマス会（12月）初詣（1月）地域に感謝の日（3月）

G 研修計画

施設内研修	身体拘束・虐待防止研修、感染症対策研修及びBCP訓練、防災研修及びBCP訓練、サポカレ（障害特性、コミュニケーション技術、リフレーミング）
法人研修	新年度研修、交通安全講習会、労務研修、法律研修、防災研修、接遇研修
法人外研修	経理・財務研修、支援技術研修

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

ここにくクリーンしまだ大作戦、地域防災訓練参加、地域に感謝の日、公共交通ワークショップ

I 家族との連携、交流について

施設日より発行、保護者会、クリスマス会

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数0件
ご利用者・ご家族・受託企業・関係関連先とコミュニケーションを取り信頼関係を築く。
苦情があった場合は苦情解決委員会が定める指針に沿って迅速かつ適切に対応する。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故：4件（前年度）

職員会議等において、報告書確認及び対応策の評価を実施。原因追及や環境の改善に努め、職員間の共有とPDCAを繰り返すことで発生件数減少に取り組む。

(2) ヒヤリハット：0件（前年度）

職員会議等において、報告書確認及び対応策の評価を実施。「気づき」の視点を職員全員が持ち事故防止に講ずる。

(3) 虐待：0件（前年度）

年1回以上の虐待防止研修を実施。定期的に虐待防止委員会や職員セルフチェックを行い、普段の支援の見直しや虐待につながる支援などについて話し合う。

(4) 身体拘束：0件（前年度）

身体拘束適正化委員会を開催し、適正化と身体拘束なしの対応が取れるよう取り組む。

L 防災関連：防災訓練計画

希望の家と合同BCP訓練、引き渡し訓練、毎月防災訓練、年2回総合防災訓練
送迎中の発災に備える（ルート上の危険個所、避難可能地をまとめたMAP作成他）

M 環境整備に関する計画

防災点検（8月2月）建物自主点検（8月～9月）エアコン清掃（秋）

N 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
登録者数13名、利用実習生や見学者を積極的に受け入れ、利用者獲得に努める。
- 2 借入金償還計画 なし
- 3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

特別支援学校生徒や一般在宅障害者の実習、ボランティアの受け入れ

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

2026年4月1日より定員数変更 20名→15名

2026（令和8）年度事業計画

就労継続B型事業所
ワークセンターやまばと

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

1 事業所の重点目標

生産活動を通じて、成長や喜びの実現、希望する生活の実現を目指す。

2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み

(1) 私たちの願いに対して

ご利用者一人一人の障害特性の理解を深める。適切な環境、適切な支援方法でご利用者の作業意欲の向上から工賃向上に繋げ、自信や喜び、成長を獲得し、自己実現に繋がるよう支援する。

(2) 有事に機能する防災体制について

研修・訓練からBCPの見直し、環境設定、備蓄品の確保を行う。地域自主防災組織を知り、「自助・共助・公助」の連携が図れるような防災体制を築く。

D 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年の登録者数	昨年度の利用率	目標とする利用者数	開所日数	一日平均	利用率
20名	18人	85.8%	20人	252日	16.7人	83.5%

区分による利用者予想 ※2月末実績で次年度を見込む

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
9	0	3	1	2	2	1

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	3 (2)	3	1		7
常勤換算	0.5	1.0	1.7	2.3	0.5		5.0

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	施設管理者会、作業就労部会、事故防止委員会、苦情解決委員会 虐待防止委員会、防災委員会、未来検討会
施設関係	職員会議、感染症委員会、身体拘束適正化委員会、虐待防止委員会 防災委員会
外部を含む委員会	牧之原市自立支援協議会しごと部会

F 年間事業（行事）計画

クリスマス会（12月）、会社見学（未定）、買い物訓練（未定）、ハイキング（未定）

G 研修計画

施設内研修	感染症対策研修及びBCP訓練、防災研修及びBCP訓練、虐待防止研修 サポーターズカレッジ（障害特性等）
法人研修	新年度研修、交通安全講習会、経理・財務研修、法律研修、中堅職員研修 防災研修、労務研修、接遇研修
施設外研修	権利擁護研修、食品衛生責任者研修 他

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

坂部サロン送迎（月1回）、自主製品の直営販売（週2回）
法人地域貢献活動参加（年4回）

I 家族との連携、交流について

保護者会（未定） 施設だより発行（毎月）

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数3件
接遇マナー改善に取り組む。また、自主事業の体制について大幅な変更（時間、職員ローテーション等）を実施する。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- (1) 事故：7件（前年度）
要因分析、対応策の評価に努め、事故件数の減少を目指す。
- (2) ヒヤリハット：4件（前年度）
要因分析、対応策の評価に努め、情報共有を事故防止に繋ぐ。
- (3) 虐待：0件（前年度）
年1回虐待防止研修を実施。年2回虐待防止委員会への参加、虐待の芽セルフチェックを行い、支援の見直しや支援についての悩みを共有する。
- (4) 身体拘束：0件（前年度）
年1回身体拘束適正化委員会を実施。支援の見直しや支援についての悩みを共有する。

L 防災関連：防災訓練計画

BCP訓練、毎月防災訓練（引き渡し訓練、備蓄品を使用する訓練も含む）
地域防災訓練への参加

M 環境整備に関する計画

建物自主点検（8～9月）、防災設備点検（年2回）、害虫駆除（月1回）
ワックス掛け（年1回）、浄化槽清掃（年1回）、浄化槽点検（年5回）

N 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
定員割れの状況があり、年齢に伴い欠席が増えているご利用者もいる。新規ご利用者の獲得に努める。
- 2 借入金償還計画 なし
- 3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

定期ボランティアの受け入れの継続、特別支援学校やその他学生の実習受け入れを積極的に行う。

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

なし

2026（令和8）年度事業計画

就労継続支援B型事業所
ワークセンターさくら

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応えていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

1 事業所の重点目標

ご利用者の人権を尊重し、ご利用者の立場に立ったサービスの提供に努めます。

2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み

(1) 私たちの願いに対して

ア、サービス提供指針に則り、ご利用者は大切な人として接し、対応に当たっては、礼儀を失わないように努める。

- ・ご利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションをはかる。
- ・呼称は姓に「さん」をつける。(同姓の場合は名前に「さん」をつける)
- ・着替えや排せつ支援の時は、同性介助を守る。

イ、ご利用者へのスキルアップ支援により、目標工賃達成に向けた取り組みを実践する。

- ・作業能力・作業適性を見極めるアセスメントは前年度に引き続き行う。
- ・本人が希望する作業目標を重視した計画の作成、実行については本人の意向を確認しながら進めていく。
- ・受託作業の幅を広げ、作業種を増やす。(現受託企業へ依頼すると共に、新しい受託先を開拓)

(2) 有事に機能する防災体制について

自然災害（地震・津波・洪水等）への対応、及び人的災害（原子力・サイバー攻撃）への対応への備え、備蓄品の適性確保等、PDCA サイクルにより改善を促す。

D 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者 ※1 月末実績で次年度を見込む

定員	昨年の契約者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数	一日平均	利用率
20名	16人	72%	17人	251日	16人	80.0%

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2(1)	5(1)	1	0	10(2)
常勤換算	1.0	1.0	1.5(0.5)	3.7(1.0)	0.2	0	7.4(1.5)

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	経営会議、施設管理者会、事故防止委員会、苦情解決委員会、虐待防止委員会、防災委員会、未来検討会、作業就労部会
施設関係	職員会議、ケース検討会、感染症委員会、防災委員会、あつまリーナ全体会議、身体拘束適正化委員会
外部を含む委員会	吉田町福祉推進委員会、吉田町就労継続支援事業所連絡会

F 年間事業（行事）計画

ボーリング外出（4月）、スポーツ（6月）、地域ふれあい広場（10月）、クリスマス会（12月）余暇指導（年2回、時期は未定）

G 研修計画

施設内研修	防災研修及びBCP訓練、感染症対策研修及びBCP訓練、虐待防止研修、サポーターズカレッジ（障害特性、利用者支援・技法、リスクマネジメント）
法人研修	新年度全体研修、防災研修、労務研修、法律研修、交通安全講習、主任等研修、接遇マナー研修、相談員研修
施設外研修	経理・財務研修、感染症研修、防災研修

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

吉田町ふれあい広場参加（10月） あつまりーナクリスマス会招待（12月）

I 家族との連携、交流について

次月の予定を配布（毎月） 保護者会（5月） あつまりーナクリスマス会招待（12月）

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数1件 「職員に大きな声で怒鳴られた」
謝罪と共に改善に向けての対策について具体的に説明を行い、定期的に評価をしていく。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- （1）事故：1件（前年度）備品につまづき尻もち
作業室の環境を整え、減少に努める。
- （2）ヒヤリハット：3件（前年度）他害未遂
ご利用者の思いを受け止め、相談しやすい環境を整える。
- （3）虐待：0件（前年度）
施設が定める「虐待防止・対応マニュアル」に則り対応する。
「虐待防止セルフチェック」を定期的実施し、自己の振り返りを促す。
- （4）身体拘束：0件（前年度）
施設が定める「身体拘束・対応マニュアル」に則り対応する。
身体拘束適正化委員会を定期的開催し、事例に対して検討をする。

L 防災関連：防災訓練計画

- ・施設が定める「地震・津波対応マニュアル」「南海トラフ地震防災規程（津波避難計画）」「災害時業務継続計画書（BCP）」「消防計画書」に則り研修及び訓練を実施する。
- ・感染症対策として、感染症委員会を定期的開催し、マニュアル（BCP含）の見直し及び研修・訓練を実施する。
- ・送迎時の降車確認は「外出車両安全マニュアル」に則り徹底する。

M 環境整備に関する計画

建物の自主点検（8月）／浄化槽点検（年5回）／植木剪定及び芝刈り（年4回）／害虫駆除（月1回）／消火設備点検（年2回）／館内清掃（年2回）／冷暖房装置点検（年2回）／自動ドア点検（年2回）／施設警備（通年）

N 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
昨年度新卒新規契約者2名は利用が安定し、訓練等給付費は前年度比110%となった。今年度も吉田特別支援学校卒業生が1名利用開始となる。経営安定を目指し、新規利用者を確保すると共に経費削減にも努めたい。
- 2 借入金償還計画 なし
- 3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- ・近隣高等学校の福祉課及び県内大学の保育学科より、実習依頼がある。
- ・実習生及びボランティアについては積極的に受入れ、理解促進と、職員確保に繋げたい。

P その他

（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）
吉田町総合障害者自立支援施設運営委員会にて、前年度の事業報告・決算及び、今年度の事業計画・予算について説明を行う。
館内蛍光灯をLED照明に交換工事（吉田町実施）

2026（令和8）年度事業計画

生活介護事業所
ケアセンターマーガレット

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

1 事業所の重点目標

『日々の活動内容を充実させ、ご利用者にとって有意義に時間が過ごせるよう計画を立てる』

2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み

- (1) 私たちの願いに対して
 - ・ サービス提供指針やスタッフの服務心得等の読み合わせを行う事で、ご利用者への接遇マナーを意識し、プロとしての行動を示していく。
 - ・ ケース会議やP Jチーム等で話し合いを行い、活動や生活で充実した日々が送れるように努める。また、定期的に見直しPDCAを繰り返していく。
- (2) 有事に機能する防災体制について
 - ・ 毎月の防災訓練の実施のみでなく、災害時及び感染症のBCP訓練を始め、BCPの見直しや確認・加筆修正等を行い、有事に機能するような体制を築く。

D 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年の登録者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数見込み	一日平均見込み	利用率見込み
20名	19名	85.2%	20名	251日	18名	90.0%

区分による利用者予想 ※2月末実績で次年度を見込む

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	3	6	7	3

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	事務員	看護師	合計
実人数	1	1	8 (1)	1	1	12 (1)
常勤換算	0.1	1	5.8	0.2	0.1	7.2

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	施設管理者会、事故防止委員会、苦情解決委員会、生活ケア部会 研修委員会、虐待防止委員会
施設関係	あつまりーナ会議、職員会議、ケース会議、防災委員会、感染症 委員会、身体拘束適正委員会
外部を含む委員会	牧之原市・吉田町重症心身障害児者支援部会

F 年間事業（行事）計画

誕生会・習字教室・音楽教室・お楽しみ外出・創作活動（毎月）、ピクニック（5月）、プール（7月～9月）、収穫祭（10月）、秋のバス旅行（11月）、クリスマス会（12月）、初詣（1月）、節分の日（2月）、お疲れ様会（3月）

G 研修計画

施設内研修	虐待・身体拘束研修、防災BCP研修、感染症BCP研修、感染症研修 コミュニケーション研修・障害特性の研修（サボカレ）
法人研修	新人職員研修、新年度研修、中堅職員研修、労務研修、経理研修 等
施設外研修	社協研修、成年後見研修、権利擁護研修 等

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

- 1 ふれあい広場で、WoC やまばとのパンを販売するなど、地域の方と交流を図っていく。

I 家族との連携、交流について

- 1 4月に保護者会を開催
- 2 毎月のマーガレットだよりを配布
- 3 きずなネットでのマーガレットだよりを配信する

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度の苦情件数は0件だったが、苦情が挙げられた場合は、法人の定める「苦情解決規程」に則り、苦情解決責任者を中心に、迅速かつ適切な対応をとる。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策 *件数は前年度2月末の数

- (1) 事故：12件（前年度）
薬の件が多く、誤薬・怠薬を防ぐために、声を出しての確認や情報共有を徹底していく。
- (2) ヒヤリハット：19件（前年度）
職員の危機管理能力の向上のために、KYTの研修を実施する。
- (3) 虐待：0件（前年度）
虐待はいつでも起こりやすい事を念頭に置き、施設が定める「虐待防止・対応マニュアル」に則り対応する。また、「虐待防止・職員チェックリスト」を定期的を使用する。
- (4) 身体拘束：562件（前年度） *全ての件数は3要件を満たしているものである。
月に1回、身体拘束適正委員会を開催し、件数の減少を目指し話し合いを行っていく。

L 防災関連：防災訓練計画

- 1 「地震・津波・緊急対応マニュアル」「災害時業務継続計画書（BCP）」「消防計画」に則り研修及び訓練を行い災害に備える。毎月の防災委員会で訓練等に関して反省・検討を行い、実践に近い形で訓練を実施するように努める。また、委員会で各マニュアルの定期更新、備蓄品の確認等を実施していく。
- 2 毎日の防災自主点検及び、定期点検時に器具及び避難経路の点検を行い、危険個所の有無をチェックする。
- 3 感染症対策として、感染症委員会を定期的で開催し、マニュアル（BCP）の再検討、及び研修・訓練を実施する。
- 4 原子力災害避難計画の見直しを行う。

M 環境整備に関する計画

浄化槽（年4回の保守点検、年1回法定点検及び清掃）、植木剪定及び芝刈（年間随時）
害虫駆除（月1回）、消火設備点検（年2回）、館内清掃（年2回）、冷暖房装置点検（年2回）、自動ドア点検（年2回）、施設警備（通年）、建物自主点検（8月～9月）を行う。

N 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
前年度はご利用者が1名増えて、19名での運営となった。本年度も1名増え、満員の20名でのスタートとなる為、ある程度の収入のプラスは見込める。現在の職員数で運営し、利用率が前年度を超えれば、前年度を上回る収支となる予定である。
- 2 借入金償還計画 なし
- 3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 中・高生の体験学習や大学生の実習やボランティア等は、機会があれば積極的受け入れていく。

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- 1 吉田町総合障害者自立支援施設運営委員会にて、前年度の事業報告・決算及び、今年度の事業計画・予算について説明を行う。
- 2 吉田町より、あつまりーナ全館LEDへ変更する。

2026（令和8）年度事業計画

地域活動支援センター
レタスクラブ

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応えていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

- 1 事業所の重点目標
ご利用者の人権を尊重し、ご利用者の立場に立ったサービスの提供に努めます。
- 2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み
 - (1) 私たちの願いに対して
ア、その人らしい自立した生活が送れるよう、ご利用者の声に耳を傾け、思いを尊重し寄り添う支援を行う。
活動内容や問題についてご利用者同士で決定し実行できるよう支援する。

イ、安心して快適な生活環境を用意する。
気軽に立ち寄り、安心できる場所になるように配慮する。
 - (2) 有事に機能する防災体制について
自然災害（地震・津波・洪水等）への対応、及び人的災害（原子力・サイバー攻撃）への対応への備え、備蓄品の適性確保等、PDCA サイクルにより改善を促す。

D 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者 ※1月末実績で次年度を見込む

定員	昨年度の契約者数	開所日数	一日平均	利用率
—	16人	242日	5人	31.2%

- 2 職員配置予定

	施設長	生活支援員	事務員	その他	合計
実人数	1 (1)	2	1 (1)	0	4 (2)
常勤換算	1.0 (1.0)	0.9	0.1 (0.1)	0	2.0 (1.1)

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	経営会議、施設管理者会、事故防止委員会、苦情解決委員会、虐待防止委員会、防災委員会、未来検討会、作業就労部会
施設関係	職員会議、ケース検討会、感染症委員会、防災委員会、あつまリーナ全体会議、身体拘束適正化委員会
外部を含む委員会	吉田町福祉推進委員会、吉田町就労継続支援事業所連絡会

F 年間事業（行事）計画

農作業（通年）、ランチ作り（月2回）、創作活動（月1回）、散歩・スポーツ（不定期）
季節の行事（該当月）、グループワーク（不定期）、あつまリーナクリスマス会（12月）等

G 研修計画

施設内研修	防災研修及びBCP訓練、感染症対策研修及びBCP訓練、虐待防止研修、サポーターズカレッジ（障害特性、利用者支援・技法、リスクマネジメント）
法人研修	新年度全体研修、防災研修、労務研修、法律研修、交通安全講習、主任等研修、接遇マナー研修、相談員研修
施設外研修	経理・財務研修、感染症研修、防災研修

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

住吉海岸清掃（不定期）、湯日川土手ゴミ拾い（不定期）、レタス便り配布（毎月）
あつまりーナクリスマス会招待（12月）

I 家族との連携、交流について

次月の予定を配布（毎月）

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数0件

申立てがあった場合には、法人が定める指針に沿って迅速かつ適切な対応をする。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故：0件（前年度）

地域交流室の環境を整え、減少に努める。

(2) ヒヤリハット：0件（前年度）

毎日のケース記録の中で気になること等を職員間で共有する。

(3) 虐待：0件（前年度）

施設が定める「虐待防止・対応マニュアル」に則り対応する。

「虐待防止セルフチェック」を定期的実施し、自己の振り返りを促す。

(4) 身体拘束：0件（前年度）

施設が定める「身体拘束・対応マニュアル」に則り対応する。

身体拘束適正化委員会を定期的開催し、事例に対して検討をする。

L 防災関連：防災訓練計画

- 施設が定める「地震・津波対応マニュアル」「南海トラフ地震防災規程（津波避難計画）」「災害時業務継続計画書（BCP）」「消防計画書」に則り研修及び訓練を実施する。
- 感染症対策として、感染症委員会を定期的開催し、マニュアル（BCP含）の見直し及び研修・訓練を実施する。

M 環境整備に関する計画

- 建物の自主点検（8月）／浄化槽点検（年5回）／植木剪定及び芝刈り（年4回）／害虫駆除（月1回）／消化設備点検（年2回）／館内清掃（年2回）／冷暖房措置点検（年2回）／自動ドア点検（年2回）／施設警備（通年）

N 収支、並びに、借入金返済計画

- 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
経費を削減し、委託費収入内で運営をする。
- 借入金償還計画 なし
- 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

障害への理解促進のため、積極的に受入れる。

P その他

（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）
吉田町総合障害者自立支援施設運営委員会にて、前年度の事業報告・決算及び、今年度の事業計画・予算について説明を行う。
館内蛍光灯をLED照明に交換工事（吉田町実施）

2026（令和8）年度事業計画

相談支援事業
生活支援センターやまばと

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応えていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

1 事業所の重点目標

次の言葉をキーワードとして相談事業に取り組む。

- ① つながり、みとめあう Part2：事業所内外の事例検討の場に積極的に参加、あるいは事例検討の場を提供することで実現する。
- ② 学び合える環境づくり：共感力を高め、お互いが学び合える環境づくりをする事で、相談員としてのスキルが向上する。
- ③ 凡事徹底 Part2：むずかしいことができても、平凡なことができないということではいけない。平凡で当たり前のことが徹底してできる事業所になる。

2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み

- (1) 私たちの願いに対して
利用者としてしっかり向き合い意向を把握する。また、個別支援計画を基にして、一人ひとりの人格を尊重し、その特性に合わせた相談支援を提供するとともに、地域の福祉ニーズに応えていく。
- (2) 有事に機能する防災体制について
牧之原市竜巻災害時の停電を教訓として、拠点事業所と協力し、業務継続に必要な最低限の電源確保を考えた防災体制（備品等）を整える。

D 利用者と職員の状況（見込み）

1 特定相談支援事業実績件数見込み

前年度同様とし、計画数 263 件、モニタリング数 944 件、合計 1207 件とする。

2 職員配置予定

	施設長	主任 相談員	相談員				事務員	合計	
			委託 専任	計画 専任	他事業所 兼務	非常勤			
実人数	1	1	1	4	1	1	1	10	
常勤 換算 人数	委託	1.0	1.0					2.0	7.5
	計画			4.0	0.5	0.6		5.1	
	他	0.1					0.3	0.4	

* 専門職：社会福祉士 5 名、精神保健福祉士 2 名

* 主任相談支援専門員研修修了者：2 名、相談支援専門員初任者・実務者研修修了者：8 名

* 行動障害支援者研修修了者：3 名、要医療児者支援研修修了者：2 名、

精神障害者支援研修修了者：1 名、高次脳機能障害者支援研修修了者：1 名

E 職員会議、委員会、外部委員会

- 1 法人主催 広報委員会、研修委員会、施設管理者会、経営会議、生活ケア会議、未来検討会各グループ会議 他

- 2 事業所関係 センター定例会、事例検討会、虐待防止委員会、身体拘束委員会、事故防止委員会、感染症委員会 他
- 3 外部を含む委員会 日本知的障害者福祉協会調査・研究委員会、志太榛原地区障害者自立支援協議会、牧之原市障害者自立支援協議会関係、島田市障害者自立支援協議会関係、吉田町障害者福祉推進委員会（自立支援協議会）関係、他

F 年間事業（行事）計画

法人内他事業所と本人中心支援・意思決定支援理解の為の事例検討会を企画、運営する。

G 研修計画

- 1 事業所内 事例検討等、サポカレ他
- 2 法人内 相談員研修等 1 研修に 1 名は出席する。
- 3 外部 圏域、関係市内で開催される自立支援協議会や基幹相談主催研修等に出席する。

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

拠点事業所と連携して公益的な取組を行う。また、相談業務を通して、地域との関わりを意識した対応を行う。法人の地域貢献交流事業と連携した取り組みを行う。

I 家族との連携、交流について

相談業務を通して、ご家族に喜ばれる働きを提供する。

J 苦情について対策

苦情受付担当者を中心に対応する。初心を忘れず、万が一苦情を頂いた場合は、迅速かつ真摯に対応する。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- 1 事故：2 件（前年度） 訪問先でのトラブルと公用車関係の事故が発生している。特に交通事故について安全運転を意識していく。
- 2 ヒヤリハット：0 件（前年度） これまで、確認不足によるヒヤリハットが発生してきたことから、これまでどおりダブルチェック等再発防止に取り組みを継続していく。
- 3 虐待、身体拘束：0 件（前年度） 虐待・身体拘束等防止対策について、権利擁護の視点を常に持ち、センター内での振り返り、法人内外へ働きかけていく意識を持つていく。

L 防災関連：防災訓練計画

防災担当者が中心となり、拠点事業所と連携して防災訓練を年 2 回以上実施する。

M 環境整備に関する計画

経年劣化や機器の不具合があれば対応する。記録システムのクラウド化について検討する。

N 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画 月遅れ請求はその翌月には確実に解消する。特別な支出がなければ、収支差額のマイナス幅は前年度より少なくする。
- 2 借入金償還計画 なし
- 3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026 年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 実習生： 社会福祉士実習指導者養成研修修了者 3 名（兼務職員含む）を中心に、社会福祉士実習生を法人内入所事業所と連携し、可能な範囲で受入れる。
- 2 ボランティア ボランティア希望があった場合は、法人内の他事業所を紹介する。

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

業務の効率化を進めるために、更に ICT を更に活用し情報の共有、収集を行う。

2026（令和8）年度事業計画

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
 聖ルカホーム
 短期入所生活介護
 聖ルカショートステイ

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応えていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

1 事業所の重点目標

「利用者・家族・職員に笑顔の花を咲かせたい」 “伝える・繋がる” を大切にする

2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み

- (1) 私たちの願いに対して
 すべての人がかけがえのない存在であることを忘れず、思いやりの心で接していきたい。一人ひとりの生活習慣や大切にしていることが尊重され、その人らしい暮らしを実現し魅力ある施設づくりをしていく。職員が法人理念を理解し実践できるよう、学びの機会を設ける。
- (2) 有事に機能する防災体制について
 災害マニュアルやBCPを周知し、有事の際に実践できるようにする。また、毎月の防災訓練もマンネリ化を防ぎ実践に役立つ訓練を実施する

D 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

事業名	定員	2026年度目標稼働率 (延べ目標利用者数)	2025年度稼働率見込み (延べ利用者数見込み)
聖ルカホーム	70名	98.5% (25,167人)	98.6% (25,183人)
聖ルカショートステイ	10名	81.0% (2,957人)	81.0% (2,957人)

介護度による利用者予想

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均介護度
人数	0	0	27	18	25	70	4.0

2 職員配置予定

	施設長	相談員 ケアマネジャー	介護員	看護師	管理栄養士	事務員
実人数	1 (1)	6 (1)	45	4	1 (1)	5 (5)
常勤換算	0.75	4.65	41.57	3.6	1	2.725
	介護補助員	清掃員	宿直員	医師	合計	
実人数	7	1	4	1	75 (8)	
常勤換算	2.24	0.15	1	0.1	57.785	

※ () は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	経営会議、施設管理者会、事故防止委員会、苦情解決委員会、高齢者事業部会、研修委員会、編集委員会、防災委員会 未来検討会、虐待防止委員会 他
施設関係	経営会議、職員会議、ユニットケア推進会議、生産性向上委員会、事故防止検討委員会、身体拘束適正化委員会、虐待防止検討委員会、感染症等対策委員会、衛生委員会、ユニット会議、リーダー会議、相談員ミーティング、事務ミーティング、防災会議、メンテナンス会議、食事栄養検討会議、広報会議、優先入所検討会 他
外部を含む委員会	県老人福祉施設協議会理事会、県老人福祉施設協議会理事会研修委員会、県中部老人福祉施設協議会理事会、介護認定審査会 他

F 年間事業（行事）計画

お花見 創立記念（5月） 敬老会（9月） クリスマス会（12月） 餅つき（12月）
新年を祝う会（1月） 誕生のお祝い（誕生月） 倶楽部活動（毎月）

G 研修計画

施設内研修	感染症対策研修及びBCP訓練、防災研修及びBCP訓練、虐待防止研修、身体拘束適正化、看取りケア、事故防止、認知症、法令順守、ハラスメント、プライバシー保護、喀痰吸引、ユニットケア、接遇マナー、介護技術、口腔ケア 他
法人研修	新年度研修、新人オリエンテーション、新人職員研修、接遇・マナー研修、主任研修、交通安全講習会、経理・財務研修、法律研修、中堅職員研修、防災研修、労務研修 他
施設外研修	ユニットケア、喀痰吸引、認知症基礎研修、認知症介護リーダー研修、認知症チームケア推進研修、生産性向上フォローアップ研修、ファシリテーション、チームビルディング、感染予防、介護技術、医学知識、虐待防止、事故防止、アサーティブコミュニケーション 他

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

サロン送迎、カフェの開催、介護講座&見学相談会、災害時連携、社会福祉法人減免

I 家族との連携、交流について

聖ルカだより発行、家族との交流会&施設見学会、各種行事への招待、個別面談

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数4件・・・苦情要望は真摯に受け止め迅速に対応する。日頃から相談しやすい関係づくりに努める。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故：148件（2026年1月末）

事故発生の要因を分析し防止のための対策会議と定期的な検証を行う

(2) ヒヤリハット：48件（2026年1月末）

大きな事故につながらないために、小さな気付きを大切にする

(3) 虐待：0件（2026年1月末）

不適切なケアを含め発生しないように研修等で啓発していくとともに、職員のストレスが過剰にならないようメンタルケアを行っていく

(4) 身体拘束：0件（2026年1月末）

身体拘束のもたらすリスクを理解し『身体拘束ゼロ』に取り組む。安易に身体拘束をしないようにするとともに、生命を守るための緊急時やむを得ない場合の拘束が適切に判断できるよう職員教育を行う

L 防災関連：防災訓練計画

総合防災訓練、火災発生時の避難訓練（日中、遅番、夜間想定）、消火器の取扱い、消防署への通報訓練、停電時対応訓練、非常食の提供訓練、発電機・貯水槽使用訓練 等

M 環境整備に関する計画

浄化槽点検清掃、貯水池汚泥処理、空調設備の清掃、施設内清掃、貯水槽清掃、ガス乾燥機点検、エレベーター点検修理、自動ドア点検、特定建築物設備点検、防虫（鳥）対策、花壇・樹木整備、建物自主点検（8月～9月）

N 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

（1）聖ルカホーム

収入増のために、空床期間削減や介護報酬加算取得要件に合った体制づくりに取り組む。支出削減のため、購入品の検討や使用料の削減に取り組む。

（2）聖ルカショートステイ

新規利用者の獲得とスケジュール調整が課題である。定期的に空床情報を発信する。支出については、長期入所との稼働率按分となるため同様である。

2 借入金償還計画

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	前年度末償還済額	当年度償還額	残額
2024/9/25	1.356	10年	静岡銀行	95,000,000	34,353,900	60,646,100	0
2014/10/7	1.1	30年	島田掛川信用金庫	427,500,000	144,171,979	13,886,414	269,441,607

3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

1 実習生

大学や専門学校、高校からの受入れを積極的に行う。充実した実習となるよう、学校との連携をしていく。実習指導者の育成にも力を入れていきたい

2 ボランティア

感染症の対策をし、ボランティアの受け入れが出来るよう考えていきたい

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

1 介護保険法に基づく適正な施設運営を行う

2 ユニットリーダー研修実地研修施設として、よりよいユニットケアの実践と実習生の受入れを行う

3 生産性向上に取り組み、業務の効率化をはかり職員の負担やストレスの削減とともに、より丁寧なケアのために時間を使うこととケアの質の向上を目指す

4 感染症予防や拡大防止に引き続き取り組む

5 2026年度より、給食提供が変更になります。より一層美味しい食事の提供と経費削減に取り組む

6 積極的に広報活動を行い、利用者や職員の確保に取り組む

7 一般介護予防事業（①介護予防普及啓発事業 ②地域介護予防活動支援事業 ③家族介護継続支援事業）を牧之原市から受託しているため、地域への介護予防及び重度化の防止のための事業を計画し実施する

2026（令和8）年度事業計画

地域密着型特別養護老人ホーム
グレイス

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

- 1 事業所の重点目標
人材確保に努め、入居利用者の暮らしを守りつつ、経営の生産性向上の道を模索する。
- 2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み
 - (1) 私たちの願いに対して
入居利用者に対して礼節を失わない接遇（態度や言葉遣い）に加えて、「今、ここでどんな思い・感情」を持たれているのかに敏感になるケアに努める。
 - (2) 有事に機能する防災体制について
事前に起こりうる必要を記述した一覧を作成し、使えるように訓練を繰り返す。

D 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者 ※2月末現在予測

定員	昨年の登録者数	昨年の利用者数	目標とする利用者数	開所日数見込み	一日平均見込み	利用率見込み
29	29	10405	10405	365	28.5	98.3

区分による利用者予想 ※2月末現在の状況

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
1	0	5	13	10

- 2 職員配置予定

	施設長（補助員）	相談員（ケアマネ）	看護師	介護員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	3	21	1	1	28
常勤換算	1	1	2.33	17.47	1	0.75	23.55

※（ ）は兼務者を示す ※嘱託医は上記に含まず

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	防災委員会、苦情解決委員会、事故防止委員会、虐待防止委員会、栄養士会、未来検討会
施設関係	恵の丘職員会議、生産性向上委員会、感染等対策委員会、安全対策委員会、虐待防止対策委員会、身体拘束適正化委員会、ユニット会議、看護ミーティング、防災メンテ会議、リーダー会議、
外部を含む委員会	運営推進会議、経営運営会議、優先入所検討会

F 年間事業（行事）計画

芸能祭（9月） ハロウィン（10月） 楽笑会（1月） 餅つき大会（1月） 節分（2月）
河津桜花見（2月）

G 研修計画

施設内研修	認知症、虐待防止、身体拘束適正化、感染症、褥瘡予防、喀痰吸引、事故防止、初動訓練、法令遵守、プライバシー保護、看取りケア、緊急時対応、口腔ケア
法人研修	新年度研修、主任等研修、事例検討会、新人オリエンテーション
施設外研修	認知症介護基礎研修、介護福祉士実習指導者研修、ユニットリーダー研修、ユニットケア管理者研修、静岡県社協各研修等、喀痰吸引研修、認知症実践者研修（リーダー研修）

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

坂部ふれあいサロン遊ビリテーション、地域防災訓練への参加、施設での餅つき大会

I 家族との連携、交流について

グレイスだよりの発行、ご家族向けアンケート、運営推進会議、市内地域に向けた施設の紹介と職員募集

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数 1件（2月までの数）10/24 入居者ご家族経由で事務所にて受付。

「対応が粗雑で頭に来ちゃったみたい」との訴え。当日のうちにユニットを変更。ただ、問題を起こせばここを出られると思ってとの発言もあり。

苦情は、その内容を傾聴し速やかに発生の要因を分析・検討し対応する。また全職員に対策を周知する。また、日頃から相談しやすい良好な関係作りに努める。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故：89件（前年度）

内出血事案多く、原因不明多数により、基本的な介護動作の確認を行う。

(2) ヒヤリハット：71件（前年度） 同上

(3) 虐待：0件（前年度） 不適切なケアでないか意識しつつケアを行うように努める。

(4) 身体拘束：0件（前年度）

身体拘束でないか意識しつつケアを行うように努める。

L 防災関連：防災訓練計画

周辺施設との連携の確認・連絡訓練、BCPの定期見直し、備蓄品の補充、災害時の必要実行項目の洗い出しと訓練

M 環境整備に関する計画

建物自主点検（年2回）、特殊建物点検（年1回）、居室エアコン及び居室洗面給湯器の交換（故障時随時）

N 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

給食提供体制の変更に伴う早朝時間帯の人的強化、防災関連物品の購入

2 借入金償還計画 なし

3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

三浦孝氏（不定期）、日赤奉仕団（5月・10月・3月）

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

・経費削減を目的とした給食業者の変更（冷凍副菜の再加熱による提供に切り替える）

・運営指導対応を準備（BCP更新やカスハラ指針など）

2026（令和8）年度事業計画

養護老人ホーム
相寿園

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

1 事業所の重点目標

報連相の強化をしながら部門の連携を取り、助け合いながら問題解決を図る。
赤字経営から脱却できるように、短期利用者を積極的に受け入れていく。
業務内容を見直して、経費削減できることを取り組んでいく

2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み

(1) 私たちの願いに対して

重点目標：働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
お互い尊重し合い・感謝の気持ちを伝えあい働きやすい環境を作る。
一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
対応困難のケース対応の時でも、職員同士助け合いながら対応していく。
利用者の訴えを傾聴して、真摯な対応を全職員ができるようにしていく。

(2) 有事に機能する防災体制について

BCPの理解を深め、誰でも対応できるようにしていく

D 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者 ※1月末実績で次年度を見込む

定員	昨年の 契約者数	昨年度の 利用率	目標とする 利用者数	開所日数	一日平均	利用率
50名	25人	52.5%	31人	365日	24人	49.8%

区分による利用者予想 ※1月末実績で次年度を見込む

介護度なし	要支援1	要支援2	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4
12	2	1	3	1	3	2

2 職員配置予定 ※2月末の実績ではなく、4月から必要とする人数（常勤換算）を記入する

	施設長	生活相談員	生活支援員	栄養士	事務員	その他 看護師含む	合計
実人数	1	1	7	1	1	8	19
常勤換算	1.0	1.0	5.36	1.0	1.0	4.55	13.91

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	施設管理者会、事故防止委員会、苦情解決委員会、高齢者部会、研修委員会、編集委員会、防災委員会 未来検討会、虐待防止委員会
施設関係	主任等会議・支援会議・職員会議・ケアプラン会議 支援ミーティング 感染症予防対策委員会・身体拘束廃止委員会・虐待防止委員会・事故防止対策委員会・給食献立委員会
外部を含む委員会	県老人福祉施設協議会・中部養護職員連絡協議会・入所判定会

F 年間事業（行事）計画

6月うおとも招待 7月納涼祭 9月敬老会 10月運動会 11月秋の外出
12月クリスマス会 1月初詣 2月節分 3月春の外出
毎月のレクレーション(ストラックアウト大会・輪投げ大会等)
笑ヨガ(毎月第3水曜) 大場さんレク(毎月第2火曜) 誕生月外出(その月に応じて)
毎月の習字クラブ

G 研修計画

施設内研修	法定研修(感染予防対策・身体拘束虐待防止・事故防止)お茶の水ケアサービス学院(高齢者支援に関する研修)アンガーマネジメント研修
法人研修	新年度全体研修・交通安全講習会・経理財務研修・法律研修・中堅職員研修 防災研修・労務研修・
施設外研修	県社協主催の研修

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

地域防災倉庫の設置。

I 家族との連携、交流について

年4回の相寿園たよりを発行・発送

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

2025年度1件

2025年の苦情は、虐待保護利用者の預金通帳を銀行に置き忘れ。身元保証人の方に直接銀行から連絡。対応の悪さを指摘された内容
取り扱い注意が必要な業務については、落ち着いて対応していく。
また、報連相の徹底をしていく。
利用者の苦情はなかったが、多くの要望を聞くケースが多かった。また、不平不満が溜まって利用者同士のトラブル(喧嘩)あり。相寿園での生活が難しく担当市町に相談。退所したケースがあった。
利用者の要望を傾聴して、安心した生活ができるようにしていく。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故：2025年度 55件

利用者のADL低下に伴う転倒が多く、薬関係も多かった。
事故報告あった時は、その都度事故防止対策委員会で確認・対策を協議していく。要因が環境面であれば、再発しないように環境を整える。
人的面であれば、職員に手順方法など聞き取り、協議・改善していく。

(2) ヒヤリハット：2025年 11件

2025年10月から、転倒に関しては全て事故報告とした。ヒヤリでも、事故に繋がるケースもあった。事故報告同様その都度事故防止対策委員会で確認

・対策を協議していく

(3) 虐待：2025年度 0件

虐待防止委員会で、虐待の芽チェックリストを活用して日頃の支援を振り返るようにしていく。

アンガーマネジメントをできる限り全職員に受講してもらう。

月1回支援員会議(支援ミーティング)あるため、苛立ったことなど伝え共有できる時間を作る。支援員以外でも、同様に調整していく。

(4) 身体拘束：2025年度 2件

認知症利用者が、コロナになってしまい身体拘束廃止委員会で協議して身体拘束を実施。(静養室の施錠)

感染拡大防止策として、慎重に協議していく。

L 防災関連：防災訓練計画

毎月の職員会前に、避難訓練を実施。訓練後、AED操作の確認・応急処置など入れていく。

M 環境整備に関する計画

牧之原市主導の大規模修繕(居室棟・外壁・屋根)

N 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画(前年度の収支状況との関連)

2025年度利用者数の減員により、収入減。牧之原市と協議(理事長・事務長・部長・施設長)支弁額を上げてくれるなど牧之原市が対応してくれた。

牧之原市より、経費削減を強く求められた。

2026年度は、職員配置(職員数減)で対応。また、措置者数を増やすのが理想だが、相寿園だけの努力では難しい。短期入所者を、できるだけ多く受け入れよう関係機関と連携をとっていく。

2 借入金償還計画 なし

3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

インターシップの学生などを積極的に受け入れていく。

P その他 (主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

2026（令和8）年度事業計画

通所介護
介護予防・日常生活支援総合事業
デイサービスセンター真菜

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応えていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

- 1 事業所の重点目標：利用者、家族、職員が安全に安心して、笑顔で過ごせる施設にする
- 2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み
 - (1) 私たちの願いに対して：利用者の思いを傾聴し利用者本位の支援を行う。職員同士がお互いを認め合い、誰に対しても気持ちの良い挨拶と感謝を伝えあえるように努める。
 - (2) 有事に機能する防災体制について：送迎時の災害における体制づくりと、防災拠点や地域との協力体制を整えていく。

D 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年の登録者数	昨年の利用者数	目標とする利用者数	開所日数見込み	一日平均見込み	利用率見込み
35	72	8000	8100	309	25.8	75%

区分による利用者予想 ※2月末実績で次年度を見込む

事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
4	8	7	24	12	6	9	2

- 2 職員配置予定

	施設長	生活相談員	介護員	看護師	事務員	その他	合計
実人数	1	1(1)	11	3	1	4	21
常勤換算	0.7	1.3	7.0	1.6	0.5	1.2	12.3

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	施設管理者会、高齢者部会、事故防止委員会、苦情解決委員会、防災委員会、虐待防止委員会、未来検討会
施設関係	職員会議、くもん会議、レク会議、業務改善委員会、ケース検討会、安全対策委員会、感染症対策委員会、DS 合同会議
外部を含む委員会	事業所連絡会、社会福祉法人連絡協議会、家族介護支援事業

F 年間事業（行事）計画

創立記念、お花見（随時）七夕（7月）夏祭り、カラオケ大会（8月）敬老会（9月）

運動会（10月）芸術祭（11月）クリスマス会（12月）新年会、初詣（1月）
誕生会（毎月）食事作り・おやつ作り（毎月）

G 研修計画

施設内研修	感染症対策研修及びBCP訓練、防災研修及びBCP訓練、虐待・身体拘束防止研修、介護技術（入浴研修含む）、認知症研修、コミュニケーション研修、DS合同研修
法人研修	新年度全体研修、交通安全講習会、法律研修、中堅職員研修、防災研修、労務研修
施設外研修	認知症基礎研修、リスクマネジメント、くもんマスター研修、レク研修、安全運転管理者法定講習、静岡県社協各研修等

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

牧之原市委託の介護者の集い開催、生活困窮者食糧支援、サロンの送迎、農園手伝い

I 家族との連携、交流について

真菜便りの発行、介護者のつどい、満足度調査の実施

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数：0件

ご利用者やご家族とのコミュニケーションを日頃から大切にしてい

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故：36件（前年度）

検証と要因分析、対策をしっかりと行い、防げる事故を減らしていく。

(2) ヒヤリハット：58件（前年度）

職員の確認不足や注意不足の要因が多いため、職員同士の連携を密にしていく。

(3) 虐待：0件（前年度）

(4) 身体拘束：0件（前年度）

気づきと助け合える環境を作り、セルフチェックや研修を定期的に行う。

L 防災関連：防災訓練計画

マニュアルに沿った訓練の実施と、防災備品の整備、使用方法の確認を行う。

M 環境整備に関する計画

建物自主点検（9月）敷地外草刈り 畑の整備 貯水池の清掃 床清掃

N 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

稼働率の維持と生産性向上に努め、5SやICTの活用、業務の見直しを行う。

2 借入金償還計画

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	前年度末償還済額	償還額	残額
2022/4/1	なし	20年	法人本部	30,000,000	16,000,000	8,500,000	5,500,000

3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

ボランティアやおかえりプロジェクトのインターンシップなど積極的に受け入れていく

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- 1 旧年式の車両(2台)の買い替え
- 2 ケアプランデータ連携システムの活用
- 3 2026年1月5日 指定更新

2026（令和8）年度事業計画

認知症対応型通所介護

デイサービスセンターすずらん

A 基本理念：「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応えていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

- 1 事業所の重点目標：認知症を正しく理解し、利用者本位ケアを実践する
- 2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み
 - (1) 私たちの願いに対して：職員が心身共に健康で働くための環境整備(5S活動)
 - (2) 有事に機能する防災体制について
送迎時の災害における情報収集や伝達方法の体制づくりをおこなう

D 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年の 登録者数	昨年の 利用者数	目標とする 利用者数	開所日数 見込み	一日平均 見込み	利用率 見込み
12	15	2180	2410	309	7.8人	65%

区分による利用者予想 ※2月末実績で次年度を見込む

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
0	0	7	2	2	2	2

- 2 職員配置予定

	施設長兼管理者	相談員	介護員	看護師	事務員	運転手	合計
実人数	1	1	6(1)	1	1	0	10
常勤換算	0.1	1.0	4.51	0.025	0.2	0.0	5.835

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	施設管理者会、事故防止委員会、苦情解決委員会、高齢者部会、研修委員会、防災委員会、未来検討会、虐待防止委員会
施設関係	恵の丘職員会、すずらんミーティング、DS 合同(真菜)感染対策委員会、DS 合同(真菜)防災委員会、DS 合同(真菜)身体拘束虐待防止委員会、DS 合同(真菜)安全対策委員会、グレイス安全対策委員会、グレイス感染対策委員会、グレイス防災メンテ会議、給食会議、レク SNS 委員会、運営推進会議、経営運営会議
外部を含む委員会	牧之原市事業所連絡会

F 年間事業（行事）計画

お花見(随時)、運動会(6月)、夏祭り(8月)、敬老会(9月)、クリスマス会(12月)、新年会(1月)、楽笑会(1月)、節分(2月)、食事作り(毎月)

G 研修計画

施設内研修	法令順守、プライバシーの保護、身体拘束廃止、災害対策、事故防止、緊急時の対応、認知症、送迎、入浴、ハラスメント、接遇マナー、感染症対策、BCP、高齢者虐待防止、メンタルヘルス、業務継続計画研修及びシミュレーション、感染対策シミュレーション
法人研修	新年度全体研修、交通安全講習会、経理・財務研修、法律研修、防災研修、労務研修
施設外研修	身体拘束廃止研修(牧之原市・静岡県)、認知症実践者リーダー研修、

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

坂部ふれあいサロン遊びりテーション、生活困窮者食料支援、運営推進会議

I 家族との連携、交流について

すずらんだよりの発行、家族会

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数：0件

ご利用者やご家族、居宅介護支援事業所及び職員とのコミュニケーションを密にとり安心して利用できる体制づくり

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故：7件（前年度）

その方の能力や性格の情報が不十分による事故があった、ご利用者様のアセスメントを充実させ、危険の芽を特定し環境を整備していく

(2) ヒヤリハット：13件（前年度）

器具に関するヒヤリハットが多かった。器具によるケガがないように説明書の作成や使いやすい環境を整えたり、ヒヤリハットの報告を増やすことで事故を未然に防ぐことができるため、気づきを大切に、報告をしやすい環境をつくる

(3) 虐待：0件（前年度）

職員もご家族も日ごろから話し合える、助け合える環境を作っていく

(4) 身体拘束：0件（前年度）

スピーチロックにおける言葉の使い方に注意し、普段から丁寧な言葉遣いに心掛ける

L 防災関連：防災訓練計画

送迎車に防災リュックの設置・グレイスの防災訓練にも参加し、協力体制を整える

M 環境整備に関する計画：建物自主点検(年2回)、特殊建物点検(年1回)

N 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

(1) 生産性向上のための業務の棚卸やITの活用で、ムダを減らす

(2) 居宅介護支援事業所に空き情報の提供や事業所の取組を知ってもらう

2 借入金償還計画 なし

3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

1 おかえりプロジェクトのインターンシップの受け入れ

2 学生の福祉体験での交流

3 外出支援・余暇活動におけるボランティアの受け入れ

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

ケアプランデータ連携システムの活用

2026（令和8）年度事業計画

訪問介護事業
 介護予防・日常生活支援総合事業
 ライフサポートさふらん

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応えていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

1 事業所の重点目標

「利用者・家族・職員に笑顔の花を咲かせたい」 “伝える・繋がる”を大切にする

2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み

- (1) 私たちの願いに対して
 一人ひとりの身体状況や住環境、生活についての要望などをしっかりと把握し支援することで、住み慣れた地域で暮らし続けられる支援を目指します。すべての人がかけがえのない存在であることを忘れず、思いやりの心で接していきたい
- (2) 有事に機能する防災体制について
 災害マニュアルやBCPを周知し、有事の際に実践できるようにする。訪問時に災害が発生した場合について、利用者及び家族と話し合っておく

D 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者 80名

区分によるサービス提供見込み

介 護			総合事業		自費サービス
身 体	身体生活	生 活	訪問型	緩 和	
3,800件	1,200件	500件	1,000件	250件	80件

2 職員配置予定

	施設長	訪問介護員			事務員	合計
		正職	パート	登録ヘルパー		
実人数	1 (1)	2	1	9	1 (1)	14 (2)
常勤換算	0.25	2	0.6	1.77	0.275	5.895

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	経営会議、施設管理者会、事故防止委員会、苦情解決委員会、高齢者事業部会、未来検討会、虐待防止委員会 他
施設関係	経営会議、職員ミーティング、生産性向上委員会、事故防止検討委員会、虐待防止検討委員会、感染症等対策委員会、 他
外部を含む委員会	—

F 年間事業（行事）計画

なし

G 研修計画

施設内研修	感染症対策研修及びBCP訓練、防災研修及びBCP訓練、虐待防止研修、事故防止、法令順守、ハラスメント、プライバシー保護、接遇マナー、介護技術、他
法人研修	新年度研修、新人オリエンテーション、新人職員研修、接遇・マナー研修、交通安全講習会、法律研修、中堅職員研修、防災研修 他
施設外研修	緊急時対応、BCP研修、サービス提供責任者研修、訪問介護計画作成研修、訪問介護のグレーゾーン、感染予防、介護技術、虐待防止、事故防止 他

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

介護講座&見学相談会、災害時連携、社会福祉法人減免

I 家族との連携、交流について

さふらんだより発行、連絡ノートでの情報共有

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数0件・・・苦情要望は真摯に受け止め迅速に対応する。日頃から相談しやすい関係づくりに努める。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故：11件（2026年1月末）

事故発生の要因を分析し防止のための対策会議と定期的な検証を行う

(2) ヒヤリハット：1件（2026年1月末）

大きな事故につながらないために、小さな気付きを大切にする

(3) 虐待：0件（2026年1月末）

虐待防止と発見時の対応など研修を行うとともに、職員のメンタルケアを行っていく

(4) 身体拘束：0件（2026年1月末）

身体拘束がもたらす心身への影響など職員教育をしていくとともに、ご家族に対する啓発も行う

L 防災関連：防災訓練計画

総合防災訓練、消火器の取扱い、BCP訓練 等

M 環境整備に関する計画

現時点ではなし

N 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

ご依頼いただいたサービスに応えられるよう、職員確保に努めます。

2 借入金償還計画

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	前年度末償還済額	当年度償還額	残額
2024/9/25	1.356	10年	静岡銀行	5,000,000	1,808,100	3,191,900	0
2014/10/7	1.1	30年	島田掛川信用金庫	22,500,000	7,587,935	730,857	14,181,208

3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

現時点ではなし

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

現時点ではなし

2026（令和8）年度事業計画

居宅介護支援
居宅介護支援事業所シャローム

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

- 1 事業所の重点目標
利用者の尊厳と主体性を大切に、思いに寄り添いながら望む暮らしの実現を目指す。
- 2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み
 - (1) 私たちの願いに対して
利用者のみならず、家族、職員などそれぞれが、大切にされていると実感できるような関わりや支援を意識して実践する。
 - (2) 有事に機能する防災体制について
日頃から地域共生社会を意識した支援を展開し、有事にも機能する関係構築を図る。

D 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年の登録者数	昨年の利用者数	目標とする利用者数	開所日数見込み	一日平均見込み	利用率見込み
75.5	96	751	770	240		85.0

区分による利用者予想 ※2月末実績で次年度を見込む

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
1	8	28	16	3	11	2

- 2 職員配置予定

	施設長	主マネ兼管理者	ケアマネ		事務員	その他	合計
実人数	(1)	1	1		1		4
常勤換算	0.1	0.9	1		0.05		2.05

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	施設管理者会、事故防止委員会、苦情解決委員会、虐待防止委員会 高齢者部会、交通安全委員会、未来検討会
施設関係	職員会議、虐待防止委員会、感染対策委員会
外部を含む委員会	吉田牧之原ケアマネジャー連絡会、牧之原市主任ケアマネ連絡会

F 年間事業（行事）計画

恵みの丘事業所として芸能祭（9月）楽笑会（1月）へ協力、事業所としての行事はなし。

G 研修計画

必須研修	感染症対策研修と訓練、感染症/災害BCP研修と訓練、虐待防止研修（各年1回）
法人研修	新年度研修、交通安全講習会、法律研修、防災研修、労務研修
法人外研修	法定研修専門研修過程Ⅱ、法定外研修（専門職スキルアップの為の研修）

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

坂部ふれあいサロン（年2回）生活困窮者食糧支援（年1回）
榛原地区・相良地区民生委員との交流会（各年1回）

I 家族との連携、交流について

少なくとも月1回以上全利用者宅を訪問（モニタリング、他）

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情0件：事業所内での情報共有、個人情報等の適切な情報管理、定期的な委員会得た学びの共有で、サービスの質や信頼性の向上を図る取組の継続実施。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故：0件（前年度）

5分前行動を習慣づけ、余裕ある行動で事故を防止する。

(2) ヒヤリハット：0件（前年度）

事故防止対策と同様の取組実施

(3) 虐待：0件（前年度）

小さな変化を見逃さず、養護者の思いや頑張りを受止め強みに着目した言葉かけを意識的に行う。

(4) 身体拘束：0件（前年度）

利用者の尊厳と主体性を尊重し、拘束を安易に正当化することなく利用者の人権を侵害するケースとは何かを考えながら支援する。

L 防災関連：防災訓練計画

毎月恵みの丘防災訓練に参加し、有事でもスムーズに協力体制がとれるよう努める。

M 環境整備に関する計画

・特殊建物点検（年1回）

N 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

生産性向上を意識し業務の効率化を図り、残業時間減と専門職としてのスキルアップにつなげ、関係機関・地域との繋がりを大切に、より多くの信頼を頂けるよう丁寧に対応することで新規契約を獲得し、安定的な稼働率が維持できるよう努める。

2 借入金償還計画 なし

3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

特定事業所加算取得後より実習生受入事業所となるため、現時点ではなし。

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

2026（令和8）年度事業計画

牧之原市地域包括支援センター
オリーブ

A 基本理念

「ともに生きる」

B 私たちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切にし、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応じていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい。

C 事業所の計画

- 1 事業所の重点目標
ご利用者一人一人の尊厳を守り、主体的な暮らしの実現を目指す。
- 2 法人の重点目標に対する事業所の取り組み
 - (1) 私たちの願いに対して
特に (3) (4) に力を注ぐ
 - (2) 有事に機能する防災体制について
 - ・ご利用者、職員の生命や生活を保護、維持するための業務を最優先業務とする。
 - ・平常時からご利用者ごとの災害時の課題に向けた対策を行っておき、災害発生時には優先順位の高い人から安否確認を行うなど必要な支援を行う。

D 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とするプラン件数

プラン件数（月）	実態把握訪問（年）	介護予防啓発（年）	地域介護予防活動支援（年）
136 件	140 件	15 件	5 件

2 職員配置予定

	施設長	社会福祉士	保健師	主任ケアマネ	ケアマネ	主事	事務員	合計
実人数	1	2 (1)	1	0	3	3	1	10
常勤換算	1	2 (1)	1	0	2.22	2.5	0.30	8.02

※（ ）は兼務者を示す

E 職員会議、委員会、外部委員会

法人主催	施設管理者会、高齢者部会、未来検討会、事故防止委員会、苦情解決委員会、研修委員会、編集委員会、防災委員会 虐待防止委員会
事業所関係	職員会議、新規プランに関する所内カンファレンス
外部を含む委員会	支援センター連絡会、支援調整会議、主任ケアマネ連絡会、高齢者障害者連絡会、権利擁護ケースワーク、ケアプラン会議、成年後見人個別支援部会、在宅医療・介護連携推進会議

F 年間事業（行事）計画

認知症予防相談、虐待予防相談

G 研修計画

施設内研修	介護予防ケアマネジメント勉強会、認知症研修、感染症 BCP 研修 ハラスメント研修、個人情報の取り扱い研修、災害・BCP 研修
法人研修	新年度全体研修、交通安全講習会、中堅職員研修、防災研修、労務研修
施設外研修	県マネジメント講座、成年後見人制度、地域ケア会議、虐待予防研修 包括基礎研修、包括現任者研修、認知症関連研修

H 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

- 1 「介護予防普及啓発事業」として地域の各サロンに出向き、食生活の講話をはじめ、運動やレクリエーション活動を継続する。
- 2 民生委員と市内ケアマネージャーとの年1回の交流会（研修会）を継続する。
- 3 民生委員と年1回の定例の面談を実施し、顔の見える関係作りに努める。

I 家族との連携、交流について

- 1 プラン作成時、家族の意見を必ず確認し、計画に反映させていく。
- 2 複雑化する家族関係を把握し、家族を含めた利用者理解を深める。

J 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

苦情：1件（前年度）

対応手順に沿って、速やかに対応方法や再発予防の検討、市や法人への報告を行う。

K 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- (1) 事故：0件（前年度）
多角的に分析を行い、再発防止に努める。
- (2) ヒヤリハット：0件（前年度）
要因分析を継続し、事故防止に努める。
- (3) 虐待：0件（前年度）
市内3包括事務所主催の虐待予防研修を実施する。
- (4) 身体拘束：0件（前年度）

L 防災関連：防災訓練計画

- 1 作成されたBCPを周知できるよう研修会を実施する。
- 2 市、法人主催の防災訓練に参加する。

M 環境整備に関する計画

なし

N 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
牧之原市の委託契約に沿った運営を行い任意事業の実績を確保する。
- 2 借入金償還計画 なし
- 3 本部が法人全体の資金を有効に活用する為、2026年度から事業所には運転資金のみ残す。

O 実習生やボランティアに関する見込みや計画

実習やボランティアの要請があれば、その都度対応していく。

P その他（主務官庁との関連や、監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

2027年4月1日 指定更新

